令和八年度

知識情報・図書館学類

研究室紹介号

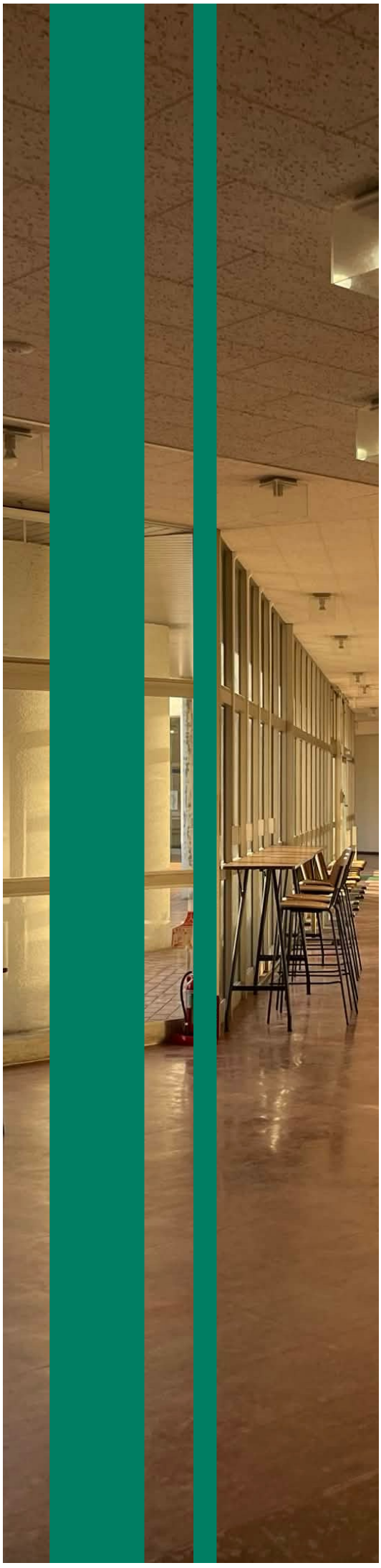


MILK

知識情報・図書館学類誌

Extra

October,2026



MILK Extra

知識情報・図書館学類誌

October,2026

知識情報・図書館学類誌MILKとは？

M …… Management
I …… Information
L …… Library
K …… Knowledge

2007年の創刊以来、学類生ならではの目線で学類生に有益な情報を
年２回（７月・12月）お届けしています。
今回は研究室紹介号をお送りいたします。

CONTENTS

知識科学主専攻

于海涛研究室・・・・・・・・・・・・・・・・02
上保秀夫研究室・・・・・・・・・・・・・・・03
辻慶太研究室・・・・・・・・・・・・・・・・04
寺地美奈子研究室・・・・・・・・・・・・・・05
照山絢子研究室・・・・・・・・・・・・・・・06
松林麻実子研究室・・・・・・・・・・・・・・07
松原正樹研究室
（身体知と芸術表現研究室）・・・・・・・・08
横山幹子研究室・・・・・・・・・・・・・・・10
立石慎治研究室・・・・・・・・・・・・・・・11

知識情報システム主専攻

森嶋厚行・伊藤寛祥研究室
（融合知能デザイン研究室）・・・・・・・・12
宇陀則彦・松村敦研究室・・・・・・・・・・14
加藤誠・ファムフーロン研究室
（知識獲得システム研究室）・・・・・・・・16
金宣経研究室・・・・・・・・・・・・・・・・17
阪口哲男研究室・・・・・・・・・・・・・・・18
鈴木伸崇研究室・・・・・・・・・・・・・・・19
関洋平研究室・・・・・・・・・・・・・・・・20
高久雅生研究室・・・・・・・・・・・・・・・21
時井真紀研究室・・・・・・・・・・・・・・・22
永井正勝研究室・・・・・・・・・・・・・・・23
山本修平研究室・・・・・・・・・・・・・・・24
落合陽一研究室
（デジタルネイチャー研究室）・・・・・・・25
柳浦猛研究室・・・・・・・・・・・・・・・・27
若林啓研究室
（マルチエージェント学習・
言語理解研究室）・・・・・・・・・・・・・28

情報資源経営主専攻

大庭一郎研究室・・・・・・・・・・・・・・・29
小野永貴研究室・・・・・・・・・・・・・・・30
小泉公乃研究室・・・・・・・・・・・・・・・31
鈴木佳苗研究室・・・・・・・・・・・・・・・32
髙良幸哉研究室・・・・・・・・・・・・・・・33
武田将季研究室・・・・・・・・・・・・・・・34
原淳之研究室・・・・・・・・・・・・・・・・35
バールィシェフ・エドワルド研究室・・・・・36
村井麻衣子研究室・・・・・・・・・・・・・・37
村田光司研究室・・・・・・・・・・・・・・・38
吉田右子研究室・・・・・・・・・・・・・・・39

執筆を承諾していただいた先生方のみの掲載です。
KLiSが公開している”2027年度卒業研究 主専攻別指導（予定）教員氏名”順の掲載です。



筑波大学 II 研究室は、情報知能の研究を行っている研究室です。II は Information Intelligence の略です。研究室の詳細についてはホームページをご覧ください：https://ii-research.github.io

ゼミの頻度・年間スケジュール

ゼミは週 1 回行います。ゼミの前にはラボノートを準備してくるのがルールです。着手発表会や中間発表会の前後に学内外他研究室との合同ゼミを行い、多様なフィードバックを得ながら研究を進めていきます。

学生の研究テーマ例

- Image-grounded Affordance-centric Knowledge Extraction and Inference
- Towards Trustworthy Retrieval-augmented Generation (RAG) with Reliable Attribution
- Towards Deeper Alignment of LLMs Based on Computational Human-value Understanding

II 研究室の最近のニュース

- 2026.09: Yao Wang さん（博士後期 3 年）が筆頭著者を務める「Event-centric Human Value Understanding in News-domain Texts: An Actor-conditioned Benchmark across Multi-scope Event Contexts」が、国際学術誌 Information Processing & Management に掲載されることが決定した。
- 2026.08: Yubo Fang さん（博士後期 3 年）が筆頭著者を務める「Towards Adaptive and Retriever-friendly Retrieval-augmented Generation via Reinforcement Learning」が、ICTIR 2026 の Research Track にフルペーパーとして採択された。
- 2026.03: Xuanchen Zhou さん（学類 4 年）が筆頭著者を務める「EasyRAG: A Beginner-Friendly and Interactive Framework for Retrieval-Augmented Generation」が、SIGIR 2026 にデモンストレーション論文として採択された。。
- 2026.02: Kaipeng Li さん(修士 2 年)が令和 7 年学位プログラム優秀学生表彰を獲得した。

メッセージ

現在の AI の急速な発展、とりわけ生成 AI の進歩を支えているのは、機械学習技術の飛躍的な進化です。本研究室では、機械学習と生成 AI の原理・可能性・限界を深く理解し、それらを適切に設計・評価・活用しながら、現実社会の課題を解決できる力を養うことを目指しています。

大学・大学院での研究生活を通じて得られる成果は、「考え方」×「熱意」×「能力」×「指導」という四つの要素の掛け算によって決まると考えています。勉学や研究に取り組むだけでなく、さまざまなことに積極的に挑戦し、多様な経験から学んでください。

旺盛な好奇心と柔軟な思考力を持ち、機械学習や生成 AI を通じて現実の課題解決に挑戦したい皆さんを広く歓迎します。毎年 10 月に開催されるオープンラボへの参加を強くお勧めしますが、それまで待てない方は、個別にメールでご連絡ください。連絡先は本研究室のホームページに掲載しています。

上保秀夫研究室 for MILK (2026)

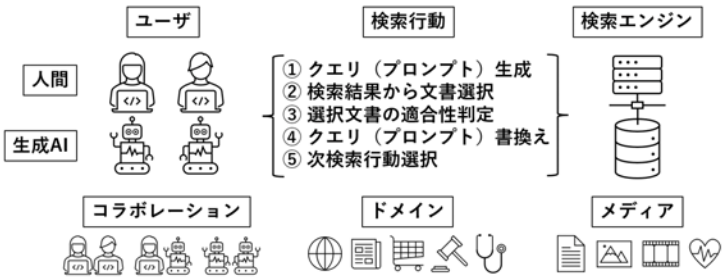
基本情報

3名（学群生） 3~5名（知識科学） 情報メディアユニオン405-1 joholab.slis.tsukuba.ac.jp @joholab_ja

研究分野について

本研究室は2026年度から人間と生成AIモデルの情報検索行動を研究します。 代表的なリサーチクエスチョンは以下の通りです。

- **人間**はどのように検索エンジンを使っているのか
- **生成AIモデル**はどのように検索エンジンを使っているのか
- **人間同士**はどのように協力して検索しているのか
- **生成AIモデル同士**はどのように協力して検索できるのか
- **人間と生成AIモデル**はどのように協力して検索できるのか



2027年度年間スケジュール

時期	活動内容	時期	活動内容
2026年12~2027年2月	オンボーディング 文献レビューと仮説形成	2027年9~10月	仮説検証と図表作成 中間発表会
2027年3~5月	実験環境の構築と倫理審査申請 バーベキュー	2027年11月	考察と追加分析 論文執筆
2027年6月	予備実験と実験計画の修正 着手発表会	2027年12月	論文執筆と推敲 クリスマスランチ
2027年7~8月	本実験の実施とデータ収集	2028年1~3月	最終発表会 学会投稿・発表

ゼミの頻度

全体ゼミ：週1回（2コマ） 勉強会：週1回（1~2コマ） 個別ミーティング：随時

過去の卒論・修論テーマ例（カッコ内は発表した国際会議や論文誌）



- 生成系AIが協調的旅行計画作業の過程と成果に与える影響について（iConference 2025）
- 大規模言語モデルに付与した性格特性が情報検索行動に与える影響（SIGIR-AP 2024）
- Selectively Expanding Queries and Documents for News Background Linking（CIKM 2022）
- 津波避難行動における情報探索の影響（情報メディア研究 19巻1号）
- 共同作業中の対話に潜在する情報ニーズの類型化（SIGIR 2017）
- 情報探索行動における制約の効果（ICADL 2012）

上保研究室に配属されると・・・

丁寧に直接指導してもらえる 時間・タスク管理スキルが身につく サイエンスリテラシーが身につく 自分の頭で考える力がつく 仲間と一緒に頑張れる ライティングボードが論文執筆を導く 研究室文庫にある専門書や技術書が読み放題

辻 慶太 研究室

指導可能な研究領域

面白い研究テーマでしたら何でも構いません。

ただ「公共図書館と子ども食堂による低所得家庭の子どもへの図書提供モデル」という研究を手伝って下さる方を優先的に募集します。具体的には以下の研究の一部を卒論にして下さる方を募集します。あくまで優先的にということで，他のテーマでも構いません。

(a) 「こどもの未来応援基金事業」に選定されている団体にアンケート・インタビュー調査を行い，低所得家庭の子どもに有効な図書を尋ね，実際に提供している図書があればそれらも記録・分析する。

(b) 低所得家庭の子どもを視野に入れたサービスを展開している公共図書館にインタビュー調査を行い，そうした子どもに有効な図書を尋ねる。実際に提供している図書があればそれらも記録・分析する。

(c) (1)学習参考書・問題集，(2)法律関係，(3)メンタルヘルス関係，(4)就職関係，(5)各種趣味関係（スポーツ，芸術，ゲームなど），(6)小説・コミック，の6種類から成る200冊の図書とその動きを検知できるRFID装置を備えた書架を購入し，規模が大きい子ども食堂に置かせて頂き，どのような図書が利用されやすいかを記録・分析する。

私はこれまで以下のような研究を行ってきました。これらに関連していると指導もしやすいです。

- 低所得家庭の子どもと公共図書館に関する調査
- 国立国会図書館が所蔵せず公共図書館が所蔵・除籍している図書の調査
- 図書館の利用量を増加させるラーニング・コモンズの要素の特定
- 公共図書館のレファレンスサービスとQ&Aサイトの正答率比較
- 司書資格取得者のその後の人生に関する追跡調査

が，繰り返すと面白い研究テーマでしたら何でも構いません。

研究指導・ゼミの概要

研究指導： 週1回，20〜40分程度Zoomか対面で，個別か全体で面談します（どのような形にするかは皆さんのご希望に従います）。春まではお好きな論文を毎週2本読んで200〜400字程度の概要をまとめて来て頂き，私がコメントして卒論の方向を探っていきます。春以降は決まった卒論テーマに基づいて調査・実験を行って頂きます。

ゼミ生： 毎年3〜4人です。大学院生はいません。

卒業後の進路： 大学図書館，県庁・市役所，IT系企業が多いです。

受け入れの条件

面談が必須条件です。面談はZoomで10〜20分くらいです。万一配属を希望される方がいたら，興味があるキーワード2，3個（図書館とか子ども食堂とかGNNとかブロックチェーンとか）といくつかの面談希望日時を書いて keita@slis.tsukuba.ac.jp にメールを下さい。

選考方法

定員をオーバーしたことはないので選考方法などはありません。第一希望の方は多分全員合格です。

寺地美奈子研究室

教員研究室：7D307
共同研究室：7D240
連絡先：minakota@slis.tsukuba.ac.jp



メンバー募集

知識科学主専攻 3～5 名を募集しています。

本研究室では、新聞・ラジオ・テレビなどのオールドメディアから現在のメディアに至るまでを幅広く対象とし、メディアが社会をどのように形成し、また社会がどのようにメディアを形成しているのか、地域や技術を出発点として考えていきたいと思います。研究方法としては、番組分析やデータ分析、フィールドワーク・資料収集による実証的調査などがあります。研究室に所属する学生の皆さんには、基礎文献を広く読み、主体的にコツコツ勉強を積み重ね、自分の力で何かを発見をしてほしいと考えています。

本研究室を希望する場合、今年度は面談を受ける必要がありません。「これまで勉強してきたこと、今関心があるテーマについて」（400 字以上）と GPA を上記メールアドレスにお送りください。こちらの締切や現在のゼミ生による相談会などについては、HOPE（希望研究室登録システム）のお知らせ欄からお伝えするので、頻繁に確認するようにしてください。

過去のテーマ例

- メディア利用とユーザーの消費行動の関連性について
- プロ野球とメディアの関係性について－阪神タイガースの地域性に着目して－
- ネタバレが映画視聴に与える影響に関する研究
- 就活生の志望形成プロセスに関する研究
- 信仰と観光をめぐる筑波山のあり方の変容－2010 年代のパワースポット・ブームに着目して－
- 大学生の映像メディアに対する意識と実態－「不便さ」を中心として－

ゼミの運営方法

基本的に、週に 1 回 2 時間程度のゼミを実施します。12 月からのプレゼミはオンラインもしくはメールのやり取りなどで行い、基本的な文献の講読を進めながら、研究テーマの方向性を考えてもらいます。4 月からは各自で研究を進め、対面ゼミでは進捗状況を発表し合い、皆で議論を重ねます。全体でのフィールドワークなどを実施する可能性もあります。

12月～3月
基本的な文献講読
KJ法

4月～6月
テーマ決め
先行研究読み込み

7月～12月
調査
論文執筆

研究室紹介

照山研究室

1. 概要

現在のメンバー　：４年生５名（科学４名、資源1名）／院生７名（修士5名、博士２名）
研究室　：情報メディアユニオン３階・学系共同研究スタジオ４（303-1）
（常駐可。ソファー、PC 等あります。） ※叶研との共同研究室
形式　：週１回２限連続でゼミをしています(ゼミの日程は、学期始めに
それぞれの時間割を確認して、全員が被らない日程を探します)。
文献の輪読、調査報告等、担当者がレジュメを作って発表します。
長期休暇中はゼミなし（各自じっくりフィールドワークに取り組
むことを期待します）。
連絡先　：teruyama@slis.tsukuba.ac.jp （照山絢子）



▲本棚には、輪読に使用する書籍や、過去の学生が研究に使用した書籍が配架されています。

2. メンバー募集

基本的には調査の方法として、「インタビュー」及び「フィールドワーク」を伴う研究をサポートします。

具体的には：

- 特定の場やコミュニティに所属する人々、また特定の属性を持つ人々について研究する。
  （例）図書館、特定の店、地域の集まり、患者会、自助グループ、社会運動グループなど
- コミュニティに出向いて活動を共にしたり、所属する人々にインタビューを実施したりする。
- コミュニケーションを通じて彼らが共有する文化、価値観、規範などを明らかにしていく。

フットワークが軽く、人と話すのが好きで、幅広い興味や問題意識を持てる学生を募集します。
受入人数：最大５名 知識科学主専攻０～５名 情報資源経営主専攻０～２名

今年の4年生の卒業研究テーマ

- 編み会におけるコミュニティ形成と手芸文化のあり方に関する研究
- シューゲイザーの再評価形成に関する研究
- 水戸藩YOSAKOI連の文化継承に関する研究
- 韓国アイドルの兵役におけるファン心理に関する研究
- キャラクターIPを活用した企業・自治体PRに関する研究

本研究室のおすすめポイント

- 研究室は24時間使い放題
- 鍵付きの研究室の中の設備・備品も充実（エアコン・電子レンジ・冷蔵庫・ソファ・iPadなど）
- 学部生/院生を問わず、留学生がたくさん！
- 研究に必要な本を経費で買ってもらえる
- 合宿がある（例年２～３月頃）
- ゼミへの参加はオンラインでも可能
- 皆が違うジャンルの研究をしていて刺激になる

3. Q & A

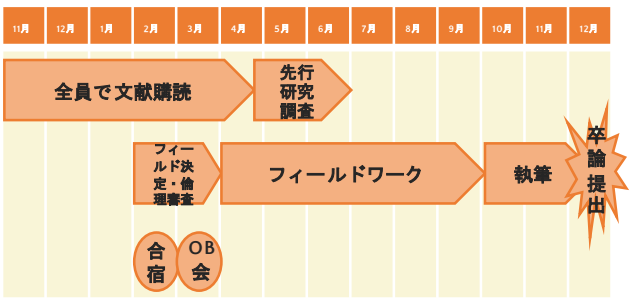
Q1. 卒業研究はどのように進めますか？　先生に相談しながら進められますか？
A.　基本的に研究は各自で行いますが、先生から適切な指導と助言を頂きながら進められます。

Q2. 研究テーマはどのようなものがありますか？
A.　過去の学生の研究テーマについては、学類ホームページや希望研究室登録システム HOPE などからご確認ください。
内容は人によって様々ですが、特定のコミュニティでのフィールドワークという点は共通しています。

Q3. 飲み会やゼミ合宿はありますか？
A.　飲み会は年に２～３回、慰労会のような形であります。
合宿は現地で調査を行う研究旅行です。
今年2月には大阪での研究旅行を行いました。

Q4. どのような雰囲気の研究室ですか？
A.　和やかな雰囲気の研究室です。ゼミ生間で活発に
意見交換が行われ、色々な考え方に触れられます。

Q5. 年間スケジュールを教えてください。
A.　卒論提出までのスケジュールは右の図の通りです。



松林麻実子研究室



指導教員研究室：7D215
学生共同研究室：情報メディアユニオン 4F 405-1
（上保研と共同です）

構成員（2026 年10 月1 日現在）
知識情報・図書館学類 4 年次 3名（科学2名，経営1名）

知識科学主専攻 3名，情報資源経営主専攻2名まで受け入れます。

◆指導可能な研究テーマ

情報行動（情報探索・利用・共有・管理など）と情報メディアとの関係について，主として社会学もしくは社会情報学観点から考察することを目指す研究テーマ全般。得意な研究手法は，ユーザ研究では半構造化インタビュー法，メディア研究では内容分析（テキスト分析）・談話分析。必要に応じて実験や質問紙調査などを組み合わせることも。

- ✧ 人間と対話型生成AIなどの情報技術との共生：技術を使う側の視点に立って，新技術は人々の暮らしや意識にどのような変化をもたらすのか，新技術はどのように使えば人間と共生できるのか，について考えます。
- ✧ 若年層におけるニュース消費：従来は，ニュース消費と言えば，（決まった）新聞を読む，もしくはテレビニュースを見るという習慣的かつ受動的な行為を意味しましたが，現在ではソーシャルメディアを介した“ながら行為”が中心であると言われています。また，なかには，コメントを書き込むことで自ら「ニュースに参加」できるようになることもあります。このようなメディアを利用する若年層にとっての「ニュース消費」について考えます。
- ✧ 動画共有メディアのコンテンツ分析：YouTubeやTikTok等でどのような情報や知識が伝達されているのか，また，それらの利用を通してどのような意識や価値観が生み出されているのかについて考えます。

上記のテーマ以外にも広く情報行動研究や情報メディア研究に興味がある人たちと研究活動をやっていきたいと思っていますので，興味がある事柄について話してみてください。

◆ゼミの運営方法

週1回2時間程度の定例ゼミを基本とします。他の仲間が研究活動を進める様子を見て学ぶことも重要だと考えますので，個人で研究したい人にはあまり向かないかもしれません。プレゼミ（3 年次）では興味がある研究テーマに関わる文献検索と読解をメインに，2～3 月頃から卒業研究の具体的なテーマを考え始めて，本ゼミ（4 年次）では卒業研究のテーマ一本に絞るというペースで進めていきます。研究室に常駐することは求めませんが，卒業研究を優先できる人を希望します。



◆本研究室を希望する場合は必ず面談を受けてください

研究室訪問期間中に必ず面談を受けてください。在室していれば飛び込みでも対応しますが，事前にメールで希望する日時と形式について予約していただくのが確実です。面談で自分の興味がどのようなところにあるかを説明できるようにしておいてください。

よく学び，よく遊べ　Work Hard, Play Harder

身体知と芸術表現

本研究室では、身体をメディアとして捉え、人間の経験や直感を研究資源として扱うことのできる、知識情報学の理論・方法・実践を形作っていきます。

AIが平均的な答えを瞬時に出してくれる
現代において、自分自身の価値基準は
あやふやになりがちです。
だからこそ重要になるのが「**身体知**」

この研究室で扱う身体知とは、、、

"Somatic Knowing"

「**からだの感覚を通じて知ること、**
または、そうして知ったことが身につき、
からだそのものが
環境や他者との関係のなかで
知る主体となっていくこと」



【 Key Words 】

経験知　実践知　身体知　暗黙知　審美眼
見立て　共感　熟達　感性　共生・共在　場づくり
間合い　メタ認知　自己変容　関係性
人とAIのインタラクション　自己表現　アート表現　マインドフルネス
一人称研究　セルフ・コンパッション
オートエスノグラフィー　アートベース・リサーチ　ウェルビーイング
生きがい



【ゼミの進め方】

週1〜2回程度

例）⇩2026年度秋学期の場合

- 14:00-15:00 輪読・身体知実践（有志）
- 15:00-16:00 全体連絡/交流イベント
- 16:00-18:00 研究進捗発表

※ そのほか個別打ち合わせ（任意）

【メンバー】

学類生 5名

（B4:4名、RS:1名）

大学院生 9名

（M1:3名、M2:3名、Dr:3名）

松原正樹先生

計15名

【現4年生の研究テーマ】

- サッカー審判員の「ゲームコントロール」を支える暗黙知
- クラシックバレエにおける「華」の構成要素と受容に関する研究
- 「暮らしに浸かる」という感覚の一人称研究
- ヨガ中級者におけるスランプの諸相と克服プロセス

こんな人待ってます✨

・誰とでもオープンに対話できる人

自分の価値観を素直に共有し、周りと協力しながら「自分らしくいられる居場所」をつくっていける人

・人生の「問い」を持っている人

「卒業までにこれだけは解き明かしたい」という切実なテーマや疑問がある人

\まつばらぼ夏合宿2026 @群馬/



本研究室ではからだを通じたアート表現によりからだとこころを観察します。アート経験の有無は問いません。アート的な取り組みへの好奇心や遊び心が思い出せるように工夫します。

Webpage

@matsubalab_tkb

@matsubalab_tkb

松原研説明会（途中入退室可）

10/8 18:15~と10/14 16:30~ 開催予定です。
詳細はWebページに情報を載せますので適宜ご確認ください。お待ちしています。

横山研究室

横山研究室では、哲学的視点から、知識を巡るさまざまな問題を扱います。学生は、知識の本質、知識の限界、知識の共有等々さまざまな問題に取り組んでいます。

「哲学的視点から」の意味、卒業研究の二つの方向性

① 主張したいことを言うために、哲学での議論を参照する。

・『Le Petit Prince』日本語版における翻訳間の類似性・差異性を記号論を用いて考える。

・ウィトゲンシュタインの言語ゲーム論を使い宮澤賢治作品における猫について考える。

② 哲学で問題になっていることについて、他の哲学者の議論を参照に論じる。

・人の心は脳に還元できるか。

・人格が同一であるとというのはどういうことか。

・情報とはいかなるものか。

現在のゼミ生の研究課題

・フィクションのパラドクス

・『Re:CREATORS』における「承認力」の分析：ごっこ遊び論を手掛かりに

・美少女 ADV ゲームにおける世界の複数性について：可能世界論を参考にして

・幾原邦彦作品における変身・トランジション・ピクトグラム：ネルソン・グッドマンの記号論を手掛かりに

ゼミの概要

募集；3 名

長期休暇の例外を除き、週 1 回のゼミ。ゼミの日時は、ゼミ生の 1 週間の予定を考えて、ゼミのメンバーが決まった時点で、相談して決めます。ゼミにかかる時間は、大体、一人 30 分から 40 分×人数を予定しています。一人一人が 1 週間でやってきたことを発表し、それに対して、ゼミ生と教員で議論します。それを人数分繰り返します。3 年生の内にテーマを絞り、4 年になってから先行研究の調査、中間発表後は、テーマについての考察というのが一般的な流れです。

卒業後はどうするのか？

多様です。大学院進学（自他）、大学の図書館員、市役所、高校の数学の先生、アーカイブ関係、SE やテクニカルライティング関係、ゲーム関係、金融機関の総合職、専門学校に行きなおしてマッサージ師。就職が決まったらゼミの先輩がいたとの報告を近年よく受けます。どんな仕事についても役に立つ、問題を発見し、その問題について論理的に考え、問題を解決していく力を身に着けていただければと思っています。

興味のある方は、横山（mikiko@slis.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

立石 慎治 研究室

知識科学主専攻
教員研究室 7D205
学生研究室 7D220

自分の人生／進路は自分で選ぶものだけど…

学び・進路・大学を，社会のしくみや制度，情報との関係から考える

進学，編入，就職．私たちの人生にまつわる選択はもちろん「自分で決めたこと」です．けれど，その背後には必ず制度，情報，学校，周囲の人々，社会のしくみがあり，それらと無縁でいられるわけでもありません．
立石研究室では，人の学びや進路を，個人だけの問題に押し込めずに，社会との関係から考えていきます．
学びや進路に対して教育(社会)学的にアプローチしていきますが，もちろん最初は教育学に馴染みがなくてもかまいません．自分が「気になっていること」から，研究できる問いを組み立て，卒論に取り組んでいきます．

たとえば，こんな「なぜ？」から．

- 途中でよその大学に移ったりできないの？
- 高校生は，本当に「自分で」進路を選んでいるの？
- 大学の先生「らしさ」って，何から生じているの？
- 大学での「よい教育」って，要はどういうもの？

研究できる領域

高等教育
大学・短大・高専・専門学校，学生，大学教員，大学制度など

キャリア教育・進路指導
小・中・高校での教育，進路選択，学校から社会への移行

教育データ分析
数量データを使って，教育・学習や人の選択を考える研究

在籍学生のテーマ

- インターネットの使用制限と生徒の学力の相関関係
- 学校外体験と家庭内コミュニケーションが児童・青年期の好奇心に与える影響

研究の進め方

ゼミは週 1 回または 2 週間に 1 回程度． 個人面談を基本に，研究の進み具合や都合に応じて開催します．所属学生が増えた場合は，全体ゼミと個人面談を基本にします．

長期休暇や就職活動の繁忙期は御都合を踏まえて面談を実施します．研究が完全に止まって後で困ることがないよう，「細く長く」続けることを重視します．

卒業研究の 1 年間（目安）

12-3 月	関心を整理し，基礎文献・先行研究を読む
4-6 月	研究の問いと方法を具体化，着手発表
7-9 月	調査・データ収集・分析を進める
10 月	中間発表．必要なら問い・方法を見直す
11-1 月	分析を仕上げ，卒業論文を執筆・提出

こんな人に

- 学校・大学，学びや進路の「当たり前」に疑問を持てる／持っている
- 必要になったことを新しく学ぶことを厭わない
- 試行錯誤は嫌いじゃない

テーマはざっくりでも構いません．ただし，「何が気になるのか」は持ってきてください．

配属を考えている方へ
事前の個人面談が必須です．面談では，興味・関心のあるテーマについて聞かせてください．
オープンラボを実施予定です（柳浦研・小原研と共同開催）．
HOPE 等を御確認いただくか，又はお問い合わせください．

2026 年度在籍学類生数　2 名
2027 年度受入予定数　0-2 名
stateishi@slis.tsukuba.ac.jp

せっかく自分が「気になっている」ことなので，自分で問い，調べ，自分で結論をだせるようになることを目指します．

融合知能デザイン研究室（森嶋・伊藤研究室）



研究室について

2017 年に立ち上げた Human-in-the-loop Big Data & AI の研究を進める研究室です．
防災，健康，教育，環境，飢餓，貧困･･･人類が直面する困難な問題を解決するために，人々と計算機の知を結集して立ち向かわなければなりません．本研究室では，人類が史上初めて手に入れた，数十億規模の人々と AI のネットワークを活用し，これらの協力により創出される「融合知能」をデザインする科学技術を確立します．研究のための研究を行うのではなく，世界的な研究成果を出しながら，成果を活用したプラットフォームを自ら開発し，様々な領域の専門家と協力して，これまで諦めていた問題の解決とよりよい社会を実現することを目指します．

研究テーマ & キーワード

Human-in-the-loop Big Data & AI

本研究室では , 融合知能 (AI 組織論，集合知，Human-AI 協働，Agentic AI 等，およびそのための AI 自身) とその社会応用の研究をしています . 具体的には，ビッグデータや機械学習と Human-in-the-loop のアプローチを組み合わせる研究を行っています.

自然災害発生後の被害状況を即座に把握する
世界遺産・被災地の記録を未来に残す
障害者と健常者の共生社会を作る
みんなの力で真実を発見する
AI と群衆が教え学び合う
皆の力を合わせてアプリを作る
市民の意見を集約して市政に貢献する
漫画がより楽しめるようコンテンツを活用する



クラウドソーシング・ヒューマンコンピュテーション
ビッグデータ・データサイエンス
ソーシャルネットワーク分析
データマイニング
ソフトウェア工学
プログラミング言語設計
データベース
人工知能・機械学習
人間工学・認知心理学
HCI・ヒューマンインタフェース

クラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U の開発を通じて各々が「基盤となる理論」や「フィールド実践」を研究することが特長です．研究テーマの決め方はプロジェクトを引き継ぐ，新たに与えられる，自ら提案するなど様々です.

主な活動

ゼミ週 3 時間（研究 , 文献調査 , 開発）, 個別ミーティング週 1 回 , 勉強会随時 , 合宿 , 国内・海外学会発表

過去の主な進路

Amazon Web Servise Japan, ウェザーニューズ , SCSK, NSSLC サービス , NTT 研究所 , NTT コミュニケーションズ , NTT データ , NTT ドコモ , オールアバウト , キヤノン , クックパッド、コーエーテクモゲームス , 高校教員 (情報科), サイバーエージェント , 新日鉄住金 , ソフトバンク , DMM, トーアエイヨー , 日本 NCR, 日本マイクロソフト , 野村総合研究所 , アクセンチュア , Preferred Networks, 日立製作所 , PWC, 富士通 , マックスプランク研究所 , みずほ情報総研 , LINE ヤフー , 楽天 , リクルート，ワークスアプリケーションズ , 日本経済新聞社

詳細情報

説明会詳細は研究室 Web サイトに掲載します．募集人数：創成学類 2 名 , 知識学類 4 名程度

面談問い合わせ先 : fusioncomplab-staff@ml.cc.tsukuba.ac.jp (森嶋・伊藤) https://fusioncomplab.org

FusionCompLab (Morishima & Ito Lab.)

宇陀則彦・松村敦研究室紹介

（用語集）

雨男

宇陀先生の別称。雨が降ると「宇陀先生、近くにいる?」と言われる。体調がよいと嵐になり、体調が悪いと晴れる。過去には台風を呼び研究会を中止に追い込んだこともある。

うだまつみ／うだまつみ研

長く続いた宇陀・松村研による「うだまつ」時代。そこに、新たに誕生した堤研が合流し、3研究室の合同チームが結成された。→堤先生

宇陀・松村研プレゼン心得

発表スライドの作成と発表時に考えなければならないことを五カ条にまとめたもの。その五に「笑いを三つ取ること」とされている点に特徴がある。

打ち上げ

卒論の発表会後に行う、自由参加で楽しいイベント。松村研はほぼ全員集まるが、なぜか宇陀研は毎回揃わない。宇陀研が全員揃って参加する日は果たしていつなのか…?

うどん／うどん会

松村先生の好物。つくばにはまともなうどん屋がないので、第一回ゼミ合宿を香川にしたほど。最近、「やまびこ弁天」の開店に伴い、「うどん会」が発足しslackチャンネルもできた。目標はメニュー全制覇。

絵本

松村研のテーマの一つ。子どもにあった絵本をすすめるという課題に対して、実験、調査、システム開発と多面的なアプローチをとる。絵本好きなら誰でもウェルカム!

王将

宇陀先生の青春の味。宇陀先生にとって王将とは「餃子の王将」のことで、「大阪王将」は認めていない。餃子の焼き方は店によって上手い下手があるとのこと。

お菓子大臣

研究室に常備されているお菓子の買い出しを担当する係。大臣と副大臣がいる。宇陀先生の指定により、黒豆せんべいは必須。

オープンラボ

毎年研究室選択の時期になると開催される。研究室パンフレットを準備し、先輩たちが直接研究室の説明をする。3年生だけでなく、2年生や1年生も来てかまわない。

お花見ゼミ

ゼミを桜の木の下でブルーシートを広げて行うもの。ゼミというよりはお花見。ゆるーく研究テーマを洗い出す。果たしてこのゼミから生まれた進捗はあるのだろうか…。

課題図書コーナー

研究室の一角に設けられた書籍スペース。研究室内外の人が「ぜひ読んでほしい本」を置いて行っている。最初は宇陀先生のイティハーサを置くために作られた机上スペースだったが、その後作品が増え続け机を圧迫し始めたので移動した。

カレーパーティー

永井先生主催のカレーを食べるイベント。2026年初開催。永井先生行きつけのマルハバンにて大量のカレーを調達してきた。永井研の参加はなかった。→永井先生

近未来シリーズ

雙峰祭で出展する企画名のこと。2010年に出展して以来、グランプリを3度受賞している。国立国会図書館のカレントアウェアネスに記事が載っている。2026年は「近未来ビブリオ学園」を実施予定。

今週の松村研

松村研ゼミの冒頭、この一週間の研究以外のことを話す時間。松村先生の家庭の話やゼミ生のバイトや部活の話など普段は見えにくい一面が見られて、親睦を深めるのに一役買っている。Xに投稿される要約は、内輪ネタを一文に切り取っているので、ゼミ生以外は理解できない。

情報学学位プログラムリーダー

情報の混沌を極める大学院の教育プログラム「情報学学位プログラム」を背負って立つ者に与えられる称号。かつて宇陀先生がこの称号を与えられた。今はもうなくなってしまった会議冒頭の「クローズアップ現在」（クロ現）が懐かしい。

スクラップボックス（Scrapbox）

研究室運営に関する共有情報、各自のゼミ資料、研究会参加記録など、なんでも突っ込んでおくところ。適度なリンク構造で情報が芋づる式に出てくるため、研究室の外部脳として機能している。

ストレングス・ファインダー

自分の強み発見をしてくれる診断テスト。34の強みから上位5位が分かる。ゼミ配属後にID付きの本が配られ、自分で診断する。研究室で強みを発揮して活動してもらいたいという期待がある。なお、「指令性」を持つ人は、まだ現れていない。

ゼミ

週一で行われる議論の時間。宇陀研は1時間もかからない。松村研はかつて5時間におよぶこともあったが、最近は常識的な時間で終わる。必要に応じて個別ゼミを行うことがある。発表前は連日練習することも。

ゼミ生

大学院生含め20人を超えたあたりからもう何人いるか分からなく

なった。研究に没頭する者もいれば、合宿や雙峰祭に貪欲な者、飲み会で突然開花する者…。何が本業かは人による。カンブリア紀並みの多様性を維持しているのが特徴。共通点は「よくわからないけど楽しそう」なところ。最近は国籍も多岐にわたりインターナショナルな研究室になった。

大学院生

近年、生息数が急増中。普段は優しく時に厳しく卒研生を指導しているが、たまに飲み会で本領発揮してくるので被害に遭う者も多い。適度な距離感で付き合いつつ、その知識と経験をうまく吸収できれば、研究生活がぐっと安定するだろう。

高倉くん

宇陀先生がとある学生に与えた名前。うだまつみに高倉くんはいない。

知識情報概論

2020年度の授業アンケートで全学2位を獲得した伝説の講義。Rさん、Mさん、Uさんという人間に間違われるほどの人工知能が人気の秘密である。

堤先生

心優しき人文社会系の先生。困っている学生に救いの手をさしのべ、発狂するオタクを生暖かい目で見守ってくれる。大学院生の配属があったことにより、うだまつに合流した。冬のコミケに行くと会えるらしい。→うだまつみ

永井先生

研究室の開いたドアからいつもいい匂いがしている。ヒエログリフをこよなく愛す。カレーパーティーの主催者。→カレーパーティー

夏合宿

夏休みの合宿。遠くに行くことと卒論／修論に関わらない研究活動が目的。現地集合、ホテル各自確保という「合宿」の概念を覆す試みを続けている。これまでに、高松、函館、津、青森、熊本、広島、金沢、倉敷、米沢を訪れた。コロナ禍で途切れたが、2023年復活。富山、甲府と続いた後、2025年、伊香保にて「はつおうと」伝説誕生。2026年は仙台。伝説は封印された。→はつおうと

7D240

我らが共同研究室。寺地研と共同。ソファー、電子レンジ、電子ケトル、冷蔵庫2台を備えており、あとシャワーさえあれば暮らすことができる。発表会前や卒論提出前はお風呂に入った後に戻ってきて夜を明かす人が続出する。共用プリンタに出力を取りにきた先生が、しばしば怪訝な目でこちらを見て去っていく。

飲み放題

とあるゼミ生がこよなく愛する設定。2024年以降多発。このスイッチを押すと朝まで同じ話を何度も聞かされ、カラオケで君が代熱唱に付き合うはめになるので注意が必要である。

はつおうと

2025年合宿の宴会後に発生。合宿イベントの短歌型アーカイブス最優秀賞の初句にも使われた。なお、この場での詳説は控えておく。

パパコレ

「パパこれ買ってー」の略。研究に必要な文献などを先生に頼むためのslackチャンネルの名前。買ってくれる指導教員をパパと表すという何とも業の深い命名である。別にリアルで先生をパパと呼んでいるわけではない。

はるお

某小野研が送り込んできた凄腕スパイのコードネーム。うだまつみのゼミ生たちを完全に手なづけていて、情報は筒抜けである。2024年夏合宿で機密情報を掴まれた模様。少し汚れたシルバニアに盗撮カメラが仕込まれている。Z級映画が好み。

ピザ

発表会直前などで、皆が焦りだすと先生が注文してくれる。経験則により、4人にLサイズ1枚で計算するとちょうどよい。

プチ合宿

夏頃に1週間教室を借りきって、朝から晩まで集中して研究を行う会。過去の例を見ると、プチ合宿によって卒研が格段に進んだというゼミ生も多い一方、それっきりというパターンも起こりがち。一長一短である。コロナ禍には、ユニオン1階講義室の広大な空間を少人数で独占するという贅沢を味わうと同時に出前館のお得意様になった。

フリーアドレス制

うだまつ研の特徴の一つ。7D240は席が固定されておらず、どこでも気分に応じて自由に席が選べる。コミュニケーションが活発になり、知識創造が起きやすい。

本棚

宇陀研の永遠の研究テーマの一つ。これまで数々のゼミ生がチャレンジするも、宇陀先生のツッコミの前に死屍累々たる様。いつか「宇陀越え」を果たす英雄が現れると信じられている。

夢会

配属後の初ゼミで行う夢を語る会。模造紙に自分の夢を描いて発表する。過去には、「機械の体が欲しい」のような尖った夢から「孫3人と幸せに暮らしたい」とほんわかした夢まで様々語られてきた。彼らは夢にどのくらい近づいたろうか？

KASYS 筑波大学知識獲得システム研究室 UNIVERSITY OF TSUKUBA KNOWLEDGE ACQUISITION SYSTEM LAB.

加藤・ファム研究室

情報検索のアルゴリズムを研究しています。８期生募集中。

Web サイト： http://kasys.slis.tsukuba.ac.jp/
E-mail： kasys-contact-ml@klis.tsukuba.ac.jp
今年度受入人数： 科学 0～2、システム 6
今年度在籍者数： 学類生 6　博士前期 12　博士後期 3

教員部屋： 7D 308
学生部屋： ユニオン2F 共同研究会議室2
週間予定： ゼミ７５分　個別ミーティング（隔週）６０分
チームミーティング７５分　論文読み会７５分

主な研究分野

本研究室では**情報検索分野**の下記の研究分野を主な対象としています： 検索モデルとランキング、ランキング学習、検索ユーザ行動分析、検索ユーザモデリング

主な研究トピック

本研究室の主な研究トピックは**知識獲得システム**です：

1. 大量のデータから知識を獲得するシステムを構築する
2. 知識を人が検索するためのシステムを構築する

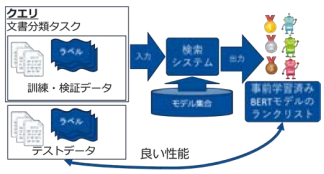
大規模言語モデルを利用し、**機械学習**によって、性能の高い**アルゴリズム**を作り出す研究を行うことが多いです。

主な研究テーマ（2026 年現在）

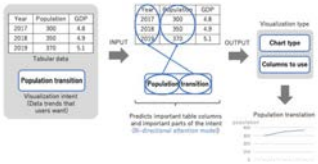
本研究室の 2026 年現在の主な研究テーマは**大規模言語モデルに基づく検索アルゴリズム，モデル検索，クライアントサイド情報検索システム**です。以下に研究テーマの例を挙げます：

1. 医療や学術分野に特化した検索モデルの学習
2. 目的に応じた機械学習モデルの検索
3. ユーザの状況に応じた能動的な情報推薦
4. 検索結果のパーソナライゼーション
5. AutoML の情報検索（IR）版である AutoIR の開発

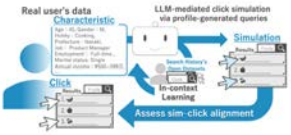
過去の研究テーマ



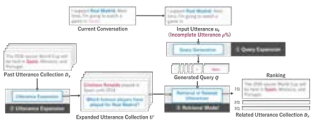
事前学習済みモデル検索： 特定の文書分類タスクにおいて良い性能を出す BERT 事前学習済みモデルを検索



データを視覚化： 表形式のデータに対して自動的に適切な視覚化方法を推定



ユーザ特性からクリックを予測： 検索を行うユーザの特性をもとに、LLM でクリックシミュレーション



発話中に過去会話を検索： 発話途中の発話文を用いて、現在の会話に関連する過去の会話を検索

年間スケジュール（予定）



輪講（週１５０分）

教科書輪講とプログラミング輪講があります。教科書は情報検索の基礎（１月～２月）、言語処理のための機械学習入門（３月～４月）、しくみがわかる深層学習（５月～６月）を使う予定です。プログラミング輪講では Python を用いる予定です。

ゼミ（週 75 分）

自分の近況などを紹介する時間です。

個別ミーティング（隔週６０分）

基本的に１対１で研究の内容について議論する時間です。

チームミーティング（週 75 分）

３チームに分かれてチームごとにミーティングします。

論文読み会（週 75 分）

１時間程度で論文を読み、残り時間で議論する会です。

プロジェクト研究発表会

メンターに助けられながら基礎的な研究プロジェクトに参加し、その成果を学内または学外で発表してもらいます。

DEIM/NLP 参加

国内で開催される学会。基本的にみんな出して発表します。

金紗羅研究室　人間･情報･技術研究室

- 指導教員：金　紗羅
- 教員部屋：7D315　/　共同研究室：7D330
- 現在のメンバー：学類生 4 名、博士前期：5 名
- 連絡先：kimsun@slis.tsukuba.ac.jp



研究テーマ

2027年度の主な研究テーマ

テクノロジーを活用した読書・学習支援
AI・ロボットに対する信頼と依存
メタ認知を支えるインタラクションデザイン

これまでの代表的な卒論

- The Effects of a Robot's Poses on User Perception and Self-Projection
- ゲームプレイ中の行動ログに基づくプレイスタイルと認知課題パフォーマンスの分析
- ピクトグラム作成システムとユーザ間相互フィードバックのためのプラットフォームの提案
- 信頼性判断をサポートする検索システムの提案 - 情報探索行動の変化を中心に -
- 感情の可視化および感情認識に関する研究
- 人からヒューマノイドロボットへの説明時に現れるジェスチャーに関する研究
- 情報の信頼性判断におけるインターネット検索の意義

主な研究手法

- 人を対象にした実験
- 行動分析
- アイトラッキング
- 生体信号計測



受入人数

知識情報システム主専攻 2～3名
知識科学主専攻 1～2名

受け入れの条件

1. 研究計画書を提出すること。
2. 面談をすること。
3. オープンラボの説明会に参加すること。
4. 秋C「Human-computer Interaction（英語の授業）」を受けること。

年間スケジュール

1～3月：基礎勉強、卒研テーマ・計画の検討
4～5月：論文読みゼミ
6月：着手発表会
7～9月：倫理審査申請、実験準備
10月：中間発表会、データ収集
10～11月：論文書きゼミ、データ収集・分析
12月：卒論初稿完成、学会投稿
翌年1～3月：最終発表会、論文最終版、学会参加

ゼミ
週1回、2時間程度で行います（休暇期間を除く）。ゼミでは、研究に必要な知識とスキルを身につけていきます。主に先行論文や自分の研究データをもとに、発表やディスカッションを行います。

週間報告・フィードバック
週1回、研究の進捗、読んだ論文、得られた成果などをメールで報告し、フィードバックを受けます。

個別ミーティング

必要に応じて、1回につき30～60分程度の個別ミーティングを行います。1対1で研究や進路について話し合います。相談したいことがある場合は、いつでもミーティングをリクエストできます。

阪口研究室とは？

～快適な情報の共有や伝達を求めて～

どんなことをやるのか？

- 今使っているシステムは快適ですか？
  - そうでないなら改善を目指そう！(あくまでも卒研の一環として)
- 快適なアプリの構築を！ (構築作業も快適にしたい！)
  - 最近はLinked (Open) Data の利活用を中心にしてますが、それに限りません
  - 情報の共有や伝達を支える技術を念頭に
    - 情報の共有や伝達を快適に行う (大目標)
    - そのために様々なアプリケーションシステム (アプリ) が構築されている
    - 「快適」には「安全」も含まれる (結果として「安心」も得られる)
  - 外部サービスに頼らず、Webブラウザ内で入門者向けプログラミング環境を
    - 最近はWebAssemblyにも少し注目中 (かつての言語屋魂:-)

最近取り扱い分野の抜粋 (他研究室と共同のものもあり)
■ Linked (Open) Data の開発・接続・検索 (発見) の支援
■ Linked (Open) Data の整備・拡充への Crowdsouring 利用
(これまでの卒研題目は下記の3年生向けWebページをご覧ください)

キャッチフレーズは「動いてナンボの阪口研」！
電気工学やハードウェアから、ネットワーク全7層、ソフトウェアはOSからアプリケーション、そして図書館学を学んできた指導教員によるアドバイス有☑:-)

・ゼミ等: 週一全体ミーティングが通例(+個別指導等)
(学類ゼミは1～4名程度、大学院生ゼミ0～2名程度の体制)

氏名: 阪口　哲男
Webページ: https://www.sakalab.org/
(3年生向けWebページはここからリンクします)
Eメール: saka あっと slis.tsukuba.ac.jp
研究室: 7D312 (春日エリア7D棟3階)
共同研究室:情報メディアユニオン棟3階7F303-2
(学系共同研究スタジオ3)

鈴木伸崇研究室

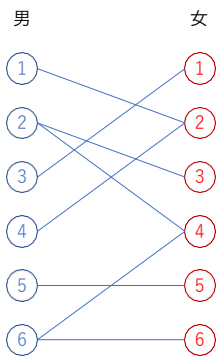
当研究室は，RDF/グラフデータや XML/HTML および CSS などの構造化データ，マッチング理論などについて研究を行っています．老若男女を問わず，意欲のある方のご参加を歓迎いたします．

RDF/グラフデータ RDF/グラフデータに対して，Shape Expression (ShEx)など記述能力の高い新たなスキーマ言語が提案されています．また，グラフデータにおいて一般的に用いられる問合せとして，パターングラフを用いたものや Property Path などの経路探索を行うものがあります．当研究室では，問合せ式が ShEx に適合するものであるかどうか（充足可能性判定），問合せ式の包含性判定などを行うアルゴリズムを開発しています．このほか，ShEx のスキーマ進化，大規模なグラフデータの概形・要約を得る（スキーマ抽出）アルゴリズムなどについて研究しています．

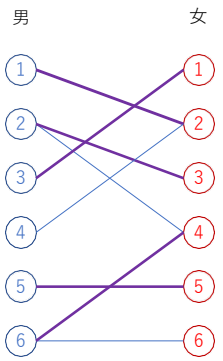
XML/HTML/CSS スキーマに適合しない XPath 式を正しい式に自動修正するアルゴリズムを開発しています．構造的に正しいXPath 式は通常複数存在するので，グラフ理論を応用し，ユーザの記述した式に近いものから順にユーザに提示できるようアルゴリズムを構成しています．このほか，JSONPath やCSS の充足可能性判定，XML スキーマ進化などについて研究を行っています．

電子書籍(EPUB) EPUBファイルを含め，電子書籍の多くはXMLやHTMLをベースとしています．そのため，XMLやHTMLを扱うのと同様の方法でデータの解析等を行うことができます．当研究室では，EPUB ファイルのテキストデータを解析して，その印象に合った色およびフォントの推薦やイラストを推薦するシステムなどを開発しています．

マッチング理論 マッチング理論は，様々な好み・希望を持つ人と人，あるいは人と資源との望ましいマッチングを求めるための理論で，男女のマッチングや研修医の配属など様々な領域に使われています．この理論は主に経済学の分野で研究されていますが，本研究室では，これをクラウドソーシングのタスク割当てなど，データ工学分野に応用することを目指して研究を進めています．なお，このテーマはアルゴリズムや理論的な素養が必要になりますのでご注意ください．



マッチしてもよい相手



最大マッチング

ご不明な点は nsuzuki@slis.tsukuba.ac.jp まで遠慮なくお問い合わせください．

研究室の基本情報：
学生数：院生4 名＋学類生4名
ゼミの頻度：週１回＋α，日程や形式は相談の上決定します（対面が基本）
研究室：
教員：7D204
学生：ユニオン3F 学系共同研究室303-2（阪口研と合同）

コミュニケーション理解研究室

関 洋平
筑波大学 図書館情報メディア系





コミュニケーション理解研究室では，人間の言語理解の過程を明らかにしつつ，人とコミュニティとをつなぐコミュニケーション意図の理解に加え，個人・組織・集団・文化にわたる多層規範を調停する規範調停型アライメントを研究しています。















教員室：	7D-213
学生研究室：	7D-140
GPU環境：	A100-80GB × 4，RTX-A6000 × 1
学生数：	13名
OB・OG：	51名

自分の興味を見つける努力をしてください。
企業との交流を積極的に進めています。

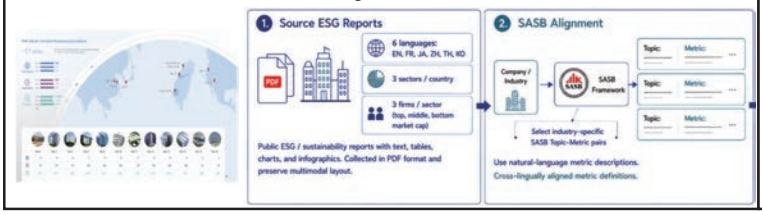
- オランダ・デルフトにて国際ワークショップ IRAI 2026を開催
- 台湾，フランス，韓国の研究者と SemEval-2025 において PromiseEval タスクを開催
- 東京大学，クラスターとメタバース上のコミュニケーションの共同研究を実施中（2025年〜）
- 国際統合睡眠医科学研究機構と不眠症，カウンセリングの共同研究を開始（2025年〜）
- 日本システム技術株式会社との共同研究を実施（2022年, https://www.jast.jp/news/15159/）

大規模モデル（LLM・VLM等）の規範調停型アライメント

個人・組織・集団・文化にわたる多層規範を調停

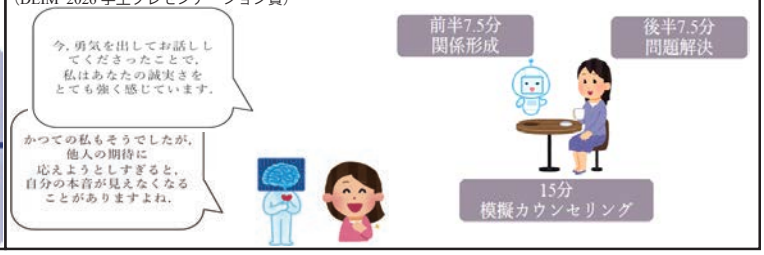
企業レポートからの公約評価・サステナビリティ基準遵守の検証

（国際会議 EMNLP 2026採録（採択率15.4%）, EMNLP 2025採録（採択率22.16%）,
SemEval-2025 PromieEval開催，NTCIR-19 RegCom 開催予定）



AIカウンセラーによる自己開示を備えた対話システム

（DEIM 2026 学生プレゼンテーション賞）



音声翻訳の動的モデル選択（DEIM 2026 優秀インタラクティブ賞，学生プレゼンテーション賞）

社会情報アクセス支援

既存のサービスでは得られない社会情報へのアクセス

市民意見と市議会議員意見の都市間比較

（国際ジャーナルIJDL採録，国際会議ICADL 2022 Best Paper Award Runner-up，
令和5年度 人間総合科学 学術院長表彰）



外国人観光客のためのスキー場のアスペクトを考慮した評判分析（IEEE WCCI 2024 採択）
都市環境における歩行者支援のための画像説明文生成（LREC-COLING 2024 採択）
都市別のソーシャルメディア投稿を利用した市民の性格特性分析（ICADL 2024 採択，DEIM 2024 学生プレゼンテーション賞）
質問エンコーダを利用したCNNに基づく関係推定（国際ジャーナル IJDL 採録，国際会議 ICADL 2020 Best Paper Award Runner-up）

都市を横断した市民意見の抽出

（言語処理学会論文誌 採録×2, WebDB夏のワークショップ2022 学生奨励賞, ARG 第16回 WI2 研究会 優秀研究賞受賞，令和4年度 人間総合科学 学術院長表彰，令和2年度 情報学群長表彰）



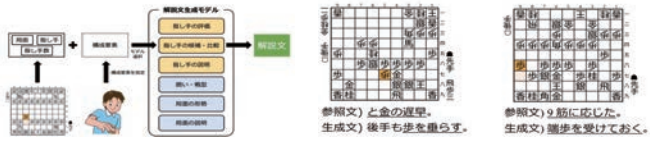
投稿型料理レシピサイト上で重複するレシピの判別
（人工知能学会誌，第14回WI2研究会学生奨励賞，第14回WI2研究会学生優秀ポスター発表賞, CEA 2017 採録，WI2研究会 第6回ステージ発表採択, DEIM2016優秀インタラクティブ賞）
ライフイベントに依存したトピック推移の分析（情報処理学会論文誌TOD 採録, ACM SIGIR 2017 採録, DEIM 2017 学生プレゼンテーション賞，平成29 年度 茗渓会賞，平成29年度 図書館情報メディア研究科長表彰）
音楽のジャンルと印象を用いたVOCALOIDクリエータの検索（人工知能学会論文誌 採録）

ソーシャルコミュニケーション支援

言語理解に基づく新たなコミュニケーションサービスの提供

将棋解説文の構成要素を考慮した解説文生成

（日本データベース学会論文誌 データドリブンスタディーズ採択, ARG WI2 第18回研究会 優秀研究賞，
DEIM 2023 インタラクティブ優秀賞，スポンサー賞（株式会社 LayerX賞），令和4年度 校友会 江崎賞）



囲碁解説文の分類と生成（DEIM 2025 学生プレゼンテーション賞）
意外性と納得感を考慮したなぞかけ生成（令和5年度情報学群長表彰）
部首と形状を考慮した中国語の未知語処理（IEEE IJCNN 2023 採択）
単語と文字の埋め込みの結合を利用したネットスラングの抽出（国際会議IALP 2022, ICADL 2021 採録）

SNSの投稿と頻度を考慮したゲーム依存のリスクスクリーニング

（国際会議 ACM WebSci 2026採録（フルペーパ採択率23%））



市民のツイートを用いた分散表現に基づく地名に対する市民の関心の傾向の可視化
（日本知能情報ファジィ学会誌 採録，平成29 年度 情報学群長表彰）
市民のツイートを分類するための関連語の抽出（平成29年度 総代・情報学群長表彰）
感情推定に基づく顔文字推薦（言語処理学会論文誌 採録, 情報処理学会 山下記念研究賞）

高久研究室の紹介

研究室Webサイト: https://takaku-lab.slis.tsukuba.ac.jp/

- 教員: 高久 雅生（たかく まさお）
- 研究室（居室）　教員：7D208室, 学生：7D221共同研究室
- 学生数（2026年度）: 5名（修士: 2名，博士: 3名）※2026年度はサバティカルのため卒研生の配属はありませんでした
- ゼミ指導：研究室全体ゼミによる進捗報告（隔週）と，個人ごとの指導（毎週）を行い，研究を進めます。 ※ゼミや個別面談はいずれも、学生の希望にあわせて対面・オンライン併用にて実施しています。

✓ 高久研究室は、図書館情報学と情報学の融合領域を中心に、情報資源をどのように組織化し、検索・利用・共有するかを研究する研究室です。

✓ 「人の知的活動を支援すること」を目標に、システム構築、データ設計、利用者行動分析、新しいサービスやインタフェースの提案など、多様なアプローチで研究を行っています。

✓ こんなひとにおすすめ

- ☐ メタデータ、Linked Data、Web API などを使って情報資源をつなげたい人
- ☐ 電子図書館・デジタルアーカイブの新しい機能やサービスを考えたい人
- ☐ 学術情報が、Web・ソーシャルメディア上でどのように流通、共有されるかに関心がある人
- ☐ 情報検索や情報探索行動を分析し、利用者を支援する方法を考えたい人

✓ 知識情報システム主専攻（主）と情報資源経営主専攻（副）から学生を受け入れています。

情報組織化

情報組織化は、さまざまな情報資源を整理・記述し、相互に関連付けて利用できるようにするための研究領域です。メタデータ、分類体系、語彙、識別子、Linked Open Data (LOD) などを用いて、情報を効果的に表現、共有する方法を考えます。

高久研究室では、書誌情報や教育情報などを対象として、Linked Dataによるデータの構造化・連携・公開や、データセットを効果的に構築・発見・利用するための手法を研究しています。

電子図書館 / デジタルアーカイブ

電子図書館・デジタルアーカイブは、デジタル資料やICTを活用して、資料の検索・提供・活用を支援し、新しい図書館サービスや情報利用の形を考える研究領域です。

高久研究室では、検索機能の高度化、Web APIを活用したサービスの提案、デジタルアーカイブ資料の検索・可視化・教育利用などを通じて、デジタル資料をより効果的に利用できる仕組みを研究しています。

情報検索 / 情報探索行動

情報検索・情報探索行動は、人が必要な情報をどのように探し、検索システムがそれをどのように支援するかを研究する領域です。検索手法、検索インタフェース、検索評価に加え、ブラウザログや視線データなどを用いて、利用者の情報要求や探索行動、知識変容を分析します。

高久研究室では、新しい検索・推薦手法や検索システムの開発、利用者の探索行動の分析を通じて、よりよい情報探索支援の実現を目指しています。

学術情報流通

学術情報流通は、論文や研究データなどの研究成果が、どのように公開・発見・共有・評価されるかを研究する領域です。学術情報データベース、DOIや著者IDなどの識別子、オープンサイエンス、ソーシャルメディア等を研究対象とします。

高久研究室では、学術情報の識別・連携、研究成果の公開・共有、学術情報サービスやデータ基盤の分析などに取り組んでいます。

過去の卒業論文テーマの例

- 古典作品翻訳のデータ構造化と利活用に関する研究 —『源氏物語』を対象として—
- 絵画の協同鑑賞における知識共有と問いの投げかけが鑑賞行動に及ぼす効果に関する研究
- 多様性リランキングにより栄養バランスを考慮したレシピ気分検索システムの評価
- 特定主題における複数図書館のコレクション比較の可視化に関する研究
- 既知事項検索を指向した楽曲の曖昧検索手法の提案
- Instagramの写真を利用した飲食店検索支援システムの構築
- 日本のテレビ放送における番組のシリーズを同定する手法の開発
- 化粧品の購買支援のためのSNS情報の抽出提示手法の研究
- 新書本を用いた学問発見支援システムの構築



連絡先: 高久雅生
Email: masao@slis.tsukuba.ac.jp / Twitter (X): @tmasao

時井研究室

情報の可視化をテーマに研究をおこなっています

知識の集約、伝達をテーマに

2016-2026 年度　AR　+絵画鑑賞,知識集約，身近な科学，探究的学習，
Kinect +浮世絵,オノマトペ,調理＋論理的思考、数学的リテラシー、可視化支援、
スポーツ+可視化支援、データリテラシー＋地理情報、統計学＋AR、
ジャーナリズム＋AR、ランニング＋データ解析、データリテラシー＋批判的思考
パラドックス＋AR、浮世絵を読み解く、空手+ことば、浮世絵＋物語 or 歴史 or 数学
バレーボール、プログラミング、AR＋データサイエンス、浮世絵＋歴史ゲーム
粘土を練る動作解析、画像処理の過程を可視化、浮世絵＋地図

焼き物の粘土をねる動作　画像処理の過程を学ぶ　浮世絵アーカイブ
わざの可視化　前処理によって結果がどうかわる？　どのあたりを描いている？
この時代の流行は？





年間スケジュール

10 月　　オープンラボ
12-2 月　基礎勉強、研究調査、
3 月　　研究会等で研究調査
4 月～　システム開発、実験、論文執筆
3 月　　学会発表



どんな研究があるのか。どんな技術を習得してみたいか。などなど、
デモ展示をみて、これからの卒業研究をイメージし、テーマを具体化していきます。



図書館との展示



グラフによる表現、ARを用いたインタラクティブな
操作により興味を引き出す試み　など

知識情報システム主専攻

デジタルヒューマニティーズ研究室



永井正勝　　mnagai@slis.tsukuba.ac.jp
個人研究室　7D209
共同研究室　7C201

研究分野は デジタルヒューマニティーズ（DH）です
本研究室の考えるDHとは デジタル技術を人文学資料に応用することにより人文学とデジタル技術の双方での発展を目指す学問となります

＜2025年度より始動した研究室です＞
- 2025年度のゼミ生は３名です（日本の系図，日本の古地図，古代エジプトの神々，に関するデジタル化研究に取り組んでいます）
- 2026年度も3名以内で受け付けます.
- ゼミは週１回（75分程度）で行う予定です.



https://wdb.jinsha.tsukuba.ac.jp/ja

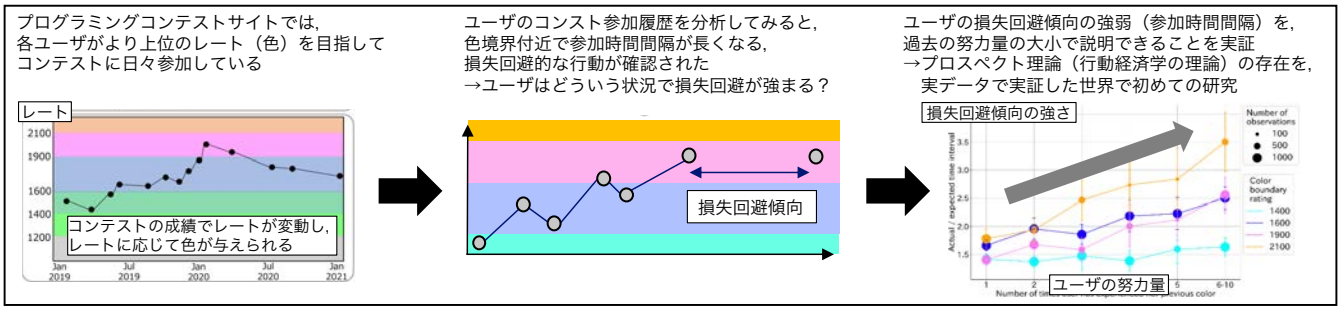
担当教員は 古代エジプト語（ヒエログリフとヒエラティック）の文字資料を対象とした言語学的な分析と検索プラットフォームの開発を 筑波大学内外の研究者と共同で進めています

キーワード:
デジタルヒューマニティーズ, 古代エジプト, 言語学, 文献資料, 文字, 文化資源, 博物館, アノテーション, IIIF (International Image Interoperability Framework), デジタルアーカイブ, オープンサイエンス

山本研究室の紹介

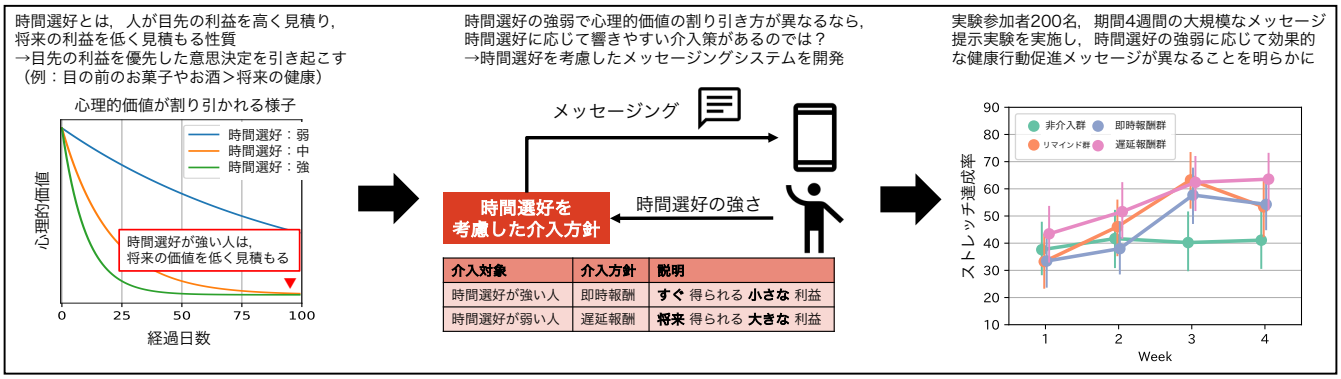
本研究室は，観測可能な**人の行動データ**を対象に，①データ分析による行動原理の解明，②機械学習を用いた行動モデルの構築，③人の行動変容が可能な介入戦略モデルの研究に取り組んでいます．以下は研究テーマの例です．

①行動経済学の知見に基づく行動原理の解明：私達はなぜ，数量限定の商品に惹かれたり，〆切間近まで仕事を先延ばしにしてしまうのでしょうか？その理由の1つは，私達が**認知バイアス**を持つためであると考えられています．認知バイアスとは，先入観や直感に頼って非合理的な意思決定をする心理傾向のことです．では，認知バイアスはどんな状況で発生しやすいのでしょうか？この研究では，人の「行動」や「状況」をデータとして収集し，データ分析と行動経済学の知見を組み合わせて，認知バイアスの発生傾向を定量的に明らかにすることを目指します．



②機械学習を用いたマルチモーダルデータ分析技術：人の行動予測や理解は，多くの産業分野で重要な技術です．例えば，交通の分野では人流予測によって混雑の回避策を検討できます．人の行動は**マルチモーダルデータ**として蓄積されます．マルチモーダルデータとは，テキストや画像，センサなど複数のデータ形式が組み合わさったデータ集合のことです．この研究では，マルチモーダルデータに対して，機械学習を用いてそれぞれのデータを適切に処理し，データ間の相互作用を最大化することで，人の行動予測や理解を実現する基礎技術の開発を目指します．

③認知バイアスを考慮した個人適応型介入策の策定：①でも述べたような人の不合理な行動は，どのような方法で良い方向に変えることができるでしょうか？方法の１つとして，Nudgeという介入策が知られています．Nudgeとは，認知バイアスを利用して人々の行動を無意識に導くための手法で，特定の選択をするようにさりげなく促すものです．現状，多くのNudgeは人々に対して一律の介入方針を提供します．この研究では，より効果的に人々の行動を変容するため，個人の**認知バイアスの強弱を考慮したNudgeシステム**を構築することを目指します．



研究室の基本情報

研究キーワード：行動モデリング，機械学習，データ分析，マルチモーダルデータ，行動経済学，行動変容

今年度募集人数：システム3名＋科学2名，　現在の学生数：学類生5名＋大学院生5名＋研究生3名

ゼミの頻度：全体打ち合わせ（150分/毎週），個別打ち合わせ（60分/随時）

対面とオンラインを併用します．打ち合わせの日時は，学生と相談の上決定します．

教員研究室：7D504，　学生研究室：7D140

教員連絡先：syamamoto [at] slis.tsukuba.ac.jp

研究室HP：https://yamamotolab-tsukuba.github.io/

Digital Nature Group

Welcome to DNG

おいでよデジタルネイチャーの森

デジタルネイチャー研 卒業研究生の募集



2026

配属予定人数

知識情報システム主専攻 2名
（情報メディア創成学類 6名）

愉快な研究室です
来年は園芸博があります
楽しく研究しよう

計算機と自然
計算機の自然

指導教員陣

落合陽一 [Yoichi Ochiai] ◎知識情報・図書館学類 協力教員
伏見龍樹 [Tatsuki Fushimi] ／ 李晶晶 [Jingjing Li]

選考方法

やる気と実装能力を考慮して選考します．
学生に求める姿勢は，次の２点です．一つ目は，研究が好きで，意欲を持って継続的に取り組めること．二つ目は，毎週自分の研究テーマについて，少なくとも５分間の報告ができることです．加えて，わからないことを素直に質問できる人や，一人で抱え込まずに周囲に相談できる人を歓迎します．

DNG Seminar

ゼミ形態と指導体制

1対多の指導

学生の自主的な研究能力を育てるため，各自が必要に応じて自由に教員への相談時間を予約する形式

教員陣



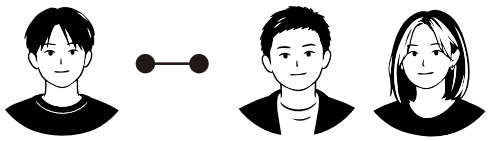
日常的に学生間での指導をチェック

大きな方向性の相談や研究結果の報告 論文添削の依頼 等

メンター制度

日々の研究相談相手として，一人ひとり専属の先輩たち1~2名（修士~）が助言をしてくれる制度

卒研生　　修士・博士・研究員



デジタルネイチャー研究室では，卒研生に**メンター制度**を導入しています．配属後，研究テーマを決めていく過程で，研究内容や使用する手法などを総合的に考慮し，**卒研生一人ひとりに専属の先輩が1~2名つきます**．日々の研究相談や進捗報告はもちろん，進路や履修について相談している人もいます．担当の先輩だけでなく，学年や分野を超えて全員が互いに助け合いながら研究室を運営しているので，「他の分野に挑戦してみたい！」といった声も歓迎しています．また，**自主ゼミも数多く企画されており，同じ研究分野や同じ学年のメンバーが集まって**，毎週決まった時間に輪読会や進捗報告会，ワークショップなどを行っています．教員への相談は，メンターとのやりとりでは解決しきれない問題がある場合や，教員から斬新な意見がほしい場面などで，必要に応じて1回15~30分ほどの時間を予約して行います．毎週決まった形式で長時間ゼミを行うのではなく，短時間で濃密な議論をするために，「**学生が自主的に議論を持ちかけるゼミ**」を目指しています．

Research Theme

過去の研究テーマ

研究テーマは，**学生の希望をもとに，教員と学生で議論しながらーから考えます**．その際，トップカンファレンスや世界的なメディアアートイベントに採択され得るほどのインパクトを持つテーマになるまで吟味します．

指導可能な研究領域

- バーチャルリアリティ（VR）／拡張現実（AR）
- ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI）
- コンピュータグラフィックス／ホログラフィ
- 視覚・聴覚・触覚ディスプレイ
- デジタルファブリケーション
- ロボティクス／人間拡張
- AI・機械学習の応用
- メディアアート／エンターテインメント
- デジタルヒューマニティーズ／テクノロジーと社会・文化

上記に限らず，分野を横断した研究も歓迎しています

過去の卒業研究題目 （知識情報システム主専攻卒業生のみ）

- Life is Mystery: Reconstructing Everyday Life Where Mystery Reincarnates
- 自分自身と向き合う MR 剣道稽古システム ―オートエスノグラフィーを通じた剣道における「気」の探究―
- MeDaCA: Method of direct manipulation and conditions for acoustic tweezers grasping Medaka
- Impression of the Sound of Rain Hitting Umbrellas
- Proposal of a new meat cooking method using High-intensity focused ultrasound(HIFU)
- マイク・イン・ザ・ループによる音響ホログラムの最適化
- 視覚障害者のための情景説明
- Goshuin 2.0 –Construction of the World's Largest Goshuin Dataset and Automatic Generation of Goshuin with Neural Style Transfer–
- Blind Badminton -System Development to Recognize a Flying Object Without Vision-
- Design Method of Digital Fabricated Pen and Evaluation of the Writability
- Choreography composed by Deep Learning

1年間のざっくりスケジュール

配属~6月	7~8月	9~10月	12~1月	2月~
研究テーマの立案 メンター決定	大学院入試	中間発表会	卒論執筆	学会への投稿 新しいテーマの立案
★卒研生新歓　★知識は着手発表会		★研究合宿	★卒論チェック会	★研究合宿

Digital Nature Group HP/NEWS にて公開される
[デジタルネイチャー研への卒業研究配属について（2026）] を必ずご覧ください
※より詳細な研究室情報や現役生の体験談などを掲載した研究室紹介パンフレットが公開されます！

柳浦研究室 ｜ 知識情報システム主専攻

Mail tyanagiura@slis.tsukuba.ac.jp

データで、教育の「当たり前」を問い直す

教育経済学 × 教育データサイエンス

思い込みや慣習で動きがちな教育に、データで光を当てる。
「本当に効果があるのか？」「公平なのか？」を検証する研究室です。

どんな研究をしているの？

1 地域と大学

**小さな私立大学は、
地域の役に立っている？**

全国に数百ある小規模私大が、地域経済にどれだけ貢献してきたかを検証。

2 情報公開と行動

**収入データを公開したら、
進学先は変わる？**

米国の大学別収入データを分析。→ 公開だけでは行動はほぼ変わらず。

3 学校政策の効果

**中学校でスマホを禁止したら、
学力は上がる？**

米国の中学校でのスマホ持ち込み禁止が、学びを高めるのかを検証。

4 国際化とバイアス

**大学の「国際化」PRに、
偏りはない？**

〈白人＝国際的〉という無意識のイメージを、AI × ビッグデータで数値化。

5 データ × 学生支援

**学業不振は、
予測して防げる？**

出席・成績・学習ログからつまずきを早期に発見し、支援につなげる。

6 情報提供の効果

**さりげない情報で、
行動は変わる？**

リマインドなど小さな「ナッジ」で、学習・進学行動は変わるかを検証。

卒論では　身近な教育の「当たり前」を1つ選び、データで効果を確かめます。
テーマ例：奨学金、入試制度、オンライン授業、生成AIと学習、部活動、塾 など

研究室データ

2期生募集

募集人数　0〜2 名

今年度の在籍　学類生 1名
ゼミ　週1回・2時間程度
教員室　7D304
学生の部屋　7D220（立石研・小原研と合同）

身につく力

- 「効果」を正しく測る考え方（因果推論）
- R／Python による大規模データ分析
- 社会の疑問を、検証できる「問い」に変える力

意欲のある人を歓迎します！
プログラミング未経験でも大丈夫。
2期生として、新しい研究室を一緒につくろう。

OPEN LAB
オープンラボ開催！
立石研・小原研と合同開催

10/15（木）16:00 – 18:30
会場　**7D220**
いつでも気軽にお立ち寄りください。

MALLU Lab

Multi-Agent Learning and Language Understanding Laboratory

マルチエージェント学習・言語理解研究室

（若林研究室）

指導教員：若林 啓（7D207）

メンバー構成：10 名 [D1: 2, M2: 3, M1: 1, 創成：3, 知識：1] ※ 2026. 10 現在

学生研究室：情報メディアユニオン棟 4 階 客員研究室（403）

研究室 web サイト：https://tzkwkblab.github.io/wkblab/

研究テーマ

本研究室では，「言語とは一体なんなのか」という問いを突き詰める研究を行っています．この問いに答えるために，「マルチエージェント強化学習」の枠組みを用いて，機械学習を搭載したエージェント群がコミュニケーションをゼロから獲得していくシステムを作ります．計算機シミュレーションにより，エージェント群が利己的にならずに協調する条件を明らかにしたり，エージェント間のコミュニケーションが言語らしくなるプロセスを分析したりするという構成論的なアプローチにより，言語の本質に迫ります．また，このような研究を通して得られた知見が，どのように言語を扱う人工知能技術の発展に活用できるかを考えます．

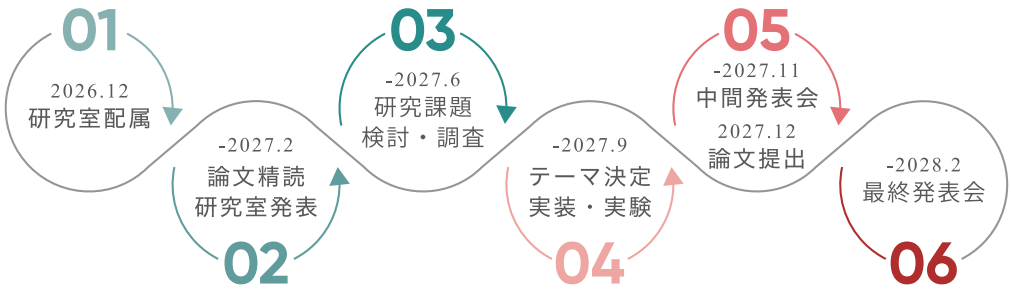
研究室の見どころ

- 機械学習の中でも，特に強化学習手法を学べます．
- 言語の起源，生物の進化理論，進化心理学といった計算機科学以外の関連分野の議論も楽しめます．
- 自由な雰囲気で研究課題に取り組めます．
- MacBook（貸与），計算用サーバが利用できます．
- Slack や GitHub を活用した環境です．

研究をすすめる上で望ましい条件

- 「役に立つものを作ること」よりも，またはそれと同じくらい，「AI に関する普遍的な真理を解明すること」に関心がある．
- プログラムの実装力がある．
- 数式を使った議論に抵抗がない．
- 他のメンバーと協力して研究に取り組める．
- 英語の論文を読むことができる（たくさん読みます）．

研究室配属から卒業までのスケジュール（予定）



- 週２回のオフィスアワー（13:00-16:00）を実施しています (長期休暇期間は任意参加).
- 学会発表（JSAI, DEIM，国際会議）を積極的に目指します．



JSAI2025（ポスター発表）の様子

過去の卒業研究テーマ例

- マルチエージェント強化学習環境下でのコミュニケーション創発過程に関する研究
- 深層強化学習を用いた集団創発言語において遺伝的進化が及ぼす影響
- 個々の個体のスキルのサンプリングに基づく文化進化モデルの分析

配属希望の方へ

- 指導教員との個別面談を経て選考，配属となります．面談に関する情報は，研究室サイトをご覧ください．
- オープンラボ：2026 年 10 月 13 日（火）14：30 〜16：00　情報メディアユニオン棟 4 階 403（出入り自由，予約不要）

多様な図書館に携わる情報専門職の育成を目指して：大庭一郎研究室紹介（2026 年版）　　大庭一郎

本研究室では，公共図書館，大学図書館，学校図書館等における情報サービス，図書館職員の養成・人的資源管理に関する問題について多角的に研究しています。

１．研究指導の４領域と研究テーマ

本研究室における研究指導の柱は，大きく分けて４つの領域に分類されます。近年，これら全領域において，多種多様な研究テーマに取り組んでいます。

第１領域は，**図書館における各種サービスの現状，そのあり方，構成方法**です。各ゼミ生が関心を持つ図書館の多様なサービスを対象とし，主に文献調査と訪問調査を用いて研究を進めます。過去のテーマには，公共図書館と学校図書館との連携，移動図書館，図書館利用教育，初年次教育，PR，図書の製本・修理，地方行政資料の提供，都道府県立図書館，刑務所図書館，高等専門学校図書館，公共図書館政策，米国の公共図書館のサービスの設計手法，等があります。

第２領域は，**図書館における情報サービスの現状，そのあり方，構成方法**です。各種レファレンス・トゥールの比較評価や，新しい情報サービス，電子図書館への取り組みを扱います。過去のテーマには，国立国会図書館の雑誌記事索引，日本書籍総目録と Books，大宅壮一文庫，レファレンスサービス，総合目録，ビジネス支援，農業支援，子育て支援，医療・法律情報や消費者情報の提供，レファレンス事例集，携帯サイトを用いた情報発信，レファレンス協同データベース，農業米国の公共図書館の宿題支援サービス，等があります。

第３領域は，**学校教育と生涯学習における読書活動の現状とそのあり方**です。学校教育や生涯学習の場における様々な読書活動について研究を進めます。現在までに，青少年読書感想文全国コンクールの課題図書，子ども読書活動推進計画，国語科教育における読書指導，大村はまの読書生活指導，『二十四の瞳』の編集と出版，毎日新聞社の各種の読書調査，等が研究されました。

第４領域は，**図書館職員の養成と人的資源管理**です。日米の図書館職員養成，図書館情報学教育の現状，職員の人的資源管理や新たな役割について扱います。これまでに，国立大学の図書館職員採用試験問題の分析，反省的実践家の観点からみた図書館員，公共図書館の職員研修やレファレンスサービス研修，等が研究されました。

２．１年３か月にわたる研究指導

研究テーマを決める際は，各自の関心領域を出発点としますが，その妥当性については研究室訪問やゼミの際に相談に乗ります。ゼミは**３年次の 12 月から４年次の２月まで，毎週１回，原則対面で実施し，毎週必ず出席すること**が求められます。ただし，就職活動中や長期休暇中は日程調整が可能です。３年次のゼミ（集団指導ゼミで）は，課題文献を読みながら配布資料をまとめ，発表・討論を行います。そして３年次の２月までに各自の卒業研究テーマを確定させ，研究に着手します。４年次は，個別指導と集団指導を併用し，公務員試験準備や就職活動と並行しながら着実に研究に取り組みます。４年次の９月末までに全ての基本文献を読み終え，10 月から論文を執筆し，12 月末に卒業研究を完成させるため，計画的かつ着実な努力が必要です。

３．研究をすすめる上で望ましい条件

３年次までの科目履修を通じて，図書館（主に公共図書館と大学図書館），情報サービス，図書館経営に関する科目を十分に履修していることが望まれます。また，３年次秋学期までに，望ましい資格試験に挑戦し資格を取得したり，各自のキャリア形成（就職，起業，進学，留学等）に必要な幅広い教養力を身につけるために，「公務員試験準備講座（教養模擬試験）」を活用していることも望まれます。研究テーマに応じて英米の図書館関連文献も読み込むため，英語多読図書を活用して英語文献を読む努力ができること，紙媒体の新聞（全国紙）に目を通す習慣づけができていることが望まれます。

４．選考方法と受入条件

選考は，**複数回の面談とレポート**によって行います。ゼミ希望者は，2026 年 10 月５日（月）の 20 時までに研究室面談を希望するメールを送付して下さい。その際，A4 判１枚の MS Word 資料を添付し，学籍番号，氏名，ゼミで取り組みたい３～４種類の複数の研究テーマとその説明，進路希望と取り組み状況を明記して下さい。

第１回目の研究室面談はオンラインにて，訪問期間の第１週目である 10 月８日（木）から 14 日（水）までに実施します。日時はメール受領後に調整しますが，この期間に面談を行わない場合，２回目以降の面談には進めません。面談の際は，提示した研究テーマについて説明して下さい。第２回目の研究室訪問面談では，研究計画を通じてテーマや方法が指導可能であることの承認を得る必要があります。２回目の面談を終えた後，レポート（A4 判１枚）をまとめて提出して下さい。

ゼミ生には，学類の授業，公務員試験の準備，就職活動，大学院への進学準備，等と並行しながら，１年３か月間，卒業研究に着実に取り組む覚悟が必要です。

５．多彩なキャリアパス

本研究室の卒業生は，**大学院修了後の進路も含め，図書館界を中心に多方面で活躍**しています。ゼミ生の中には，４年次に 1) 公務員・図書館系の採用試験と 2) 大学院入試の両方に合格し，翌年３月に学類卒で就職すると同時に，４月から**筑波大学の大学院「情報学学位プログラム」（オンライン学修可能）に進学する者（社会人大学院生）**もいます。2026 年４月１日現在の主な進路は，国立国会図書館１名，大学図書館 16 名，大学職員３名，公共図書館５名，学校図書館１名，地方自治体職員 11 名，独立行政法人職員１名，民間企業７名，進学等２名となっています。

本研究室では，学類の教育課程と研究室で学んだ事柄を踏まえて，現代社会の様々な領域で「記録による知識共有」を担う多彩な人材を育成しています。

知識情報・図書館学類

小野研究室

オープンラボ日程はWebサイトに掲載！

https://onolis.info



研究室概要

図書館情報メディア系　**小野 永貴（おの はるき）**

- 専門分野：　学校図書館，情報教育，図書館情報学 等
- 教員連絡先：　milkya@slis.tsukuba.ac.jp
- 学生研究室：　7B240共同研究室
- ゼミ形態：　原則週1回（長期休暇中などは長めのゼミを不定期実施）

本研究室が扱う研究領域

現在の中学・高校で行われる探究学習は高度化しており、これらの多様なメディアを駆使して学ぶことが、中高生には求められます。しかし、これは大変難しいことで、誰もが最初は不安を抱えたり途中で問題が生じたりします。

この不安や問題を解消し、中高生が安心して探究成果を生み出せるよう、よりよい指導法の確立や支援システムの構築が望まれます。

本研究室では、この実現に必要な基礎データや要素技術を明らかにすべく、**様々な学校現場と連携しながら実践的な研究を行っています。**
（筑波大学の附属校や各地の私立/公立学校と連携研究を実施してきました）

キーワード

- 学校図書館
- 図書委員会
- ビブリオバトル
- 高校「情報科」教育
- メディアリテラシー教育
- 探究学習支援
- 生成AIと中高生
- 研究倫理・情報倫理
- 図書館不安・研究不安

今年度のメンバー募集

研究成果の対外発表を重視しており、**早期の学会発表や論文投稿を推奨**しています。
過去には４年生の時点で国際会議に採択され、海外で発表した学生もいます。
また、本研究室は、ビブリオバトルに関するイベントや公開講座を運営したり、「図書館総合展」へ出展したりするなど、通年で多数の教育活動や分野的貢献に取り組んでいます。
長期休暇にはリゾート地で、特別ゼミ合宿も実施しています（参加は任意／一部は他大学と合同）。
これらも含め、様々な研究室活動に意欲的に関わって下さる皆様を歓迎します。

特に今年度は、以下の関連テーマに関心をもつ方を、重点的に募集します。

1. **中学・高校の探究学習における「研究倫理教育」や「研究不正防止」**
2. **中学・高校の「図書委員会」に関する研究**
3. **知的書評合戦「ビブリオバトル」に関する研究**
4. **高校の教科「情報」の研究**
5. **中学・高校での「メディアリテラシー教育」**
6. **（学習テーマに応じて書架を動的に再現する図書館のバーチャル展示開発）**

上記は概要の抜粋です。詳細は「卒業研究指導方針」を必ずご覧のうえ、面談にお越しください。









7D340

10月中旬、実施！
オープンラボ

研究領域 ： 図書館のマネジメント・ガバナンス

図書館および類縁機関が、知識や情報をどのように管理し、どのように市民に提供するのか、それらにより社会の課題をどのように解決していくのかについて、(1)政府（公共政策）・(2)図書館（経営）・(3)市民（図書館の利用者）・(4)図書館を支える理論の切り口から、実証的あるいは理論的な研究をおこなっています。

近年の研究テーマ

- 公共図書館の学校支援
- 図書館の建築と空間
- 図書館政策
- 都道府県立図書館の特徴
- 図書館プログラムの実態
- 図書館における市民協働
- ティーンの図書館利用実態
- 公共圏
- 多様化する読書のあり方
- 集合的記憶
- 社会的正義

MEMBERS

博士後期：7名
(社会人6名)
博士前期：8名
学類4年：5名

活動

- ゼミ　月1〜3回
- 個人面談　月1〜3回
- 合宿　年2回 (3月・9月頃)
- 学会参加　希望者は随時
- 慰労会等　年3〜4回

進路

大学院進学・公務員(司書・行政)・民間等

小泉研究室

図書館と地域の未来を
共に創造しましょう

連絡先
koizumi@slis.tsukuba.ac.jp

雰囲気・スケジュール

- 学生同士の関係はとても和やかです。研究室のセンターテーブルを囲んでの談笑もしばしば。
- ゼミでは活発に議論が行われ、研究や発表内容の課題を指摘しあうことで論理的な思考が鍛えられます。
- 3年生は配属後、研究法に関する入門書の輪読等を通して基礎知識を学びます。その後、3月中に卒業研究のテーマを定め、4月以降本格的に卒業研究に取りかかります。研究は個人面談を中心に進みますが、卒業研究の発表1か月程前から複数回開催されるゼミの質疑応答で、内容をさらに精錬させていきます。

配属 → 文献輪読等 → 合宿 → 研究テーマ決定 → 着手 → 各自研究を進める → 合宿 → 中間 → 論文執筆 → 卒論提出

研究室紹介　鈴木佳苗研究室



読書 ｜ メディア ｜ 学習 ｜ 図書館 ｜ リテラシー

鈴木佳苗研究室では、読書、メディア利用、学習支援、図書館サービスなど、「人の学びや生活を豊かにする情報資源の活用」を中心に研究できます。調査・実験・分析など多様な方法で、実社会の課題にアプローチする研究を歓迎します。

まだ研究テーマが明確に決まっていない場合でも、以下のキーワードが自分の関心と重なる場合は、卒業研究指導方針を確認し、面談で相談してください。

関心のあるキーワード×方法から考えられる卒業研究の方向性の例

関心のあるキーワード	主な方法	研究の方向性の例
読書・メディア利用	調査・実験	利用と理解・態度・学習・社会性などとの関係、影響やその過程
調べ学習・探究学習・学習過程	調査・実験・インタビュー	情報の探し方・資料や知識の利用、効果的な方略や学習支援
学校図書館・公共図書館	調査・インタビュー	サービスや学習支援の実態・課題、よりよい環境やサービス
メディア教育・情報教育・リテラシー	開発・実践・評価	学習支援の方法やプログラムを開発し、その効果や課題を検討
メディアが伝えるメッセージ	内容分析	メッセージの特徴を体系的・客観的に捉え、内容や表現の違いを検討

実際の卒業研究の例　（※これまでの研究例です）

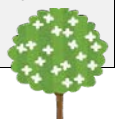
「読書形態と題材が作品理解および読書態度と関心に及ぼす効果」	「害意のある偽情報対策の学習プログラム開発と評価」
「インフォメーション・リテラシーの育成における学校図書館の活用」	「健康食品における CM 広告の特徴」

卒業研究は研究方法を学びながら進めます

- 12 月～6 月：文献を読み、ゼミで研究方法を学びながら、目的・方法を決める
- 6 月～：データ収集・分析、中間発表、卒業研究の執筆
- 1 月：卒業研究提出・最終発表
- ゼミは週 1 回程度（開催日は相談可能）

募集・研究室でできること・進路など

- 情報資源経営主専攻　3 名程度募集
- 研究プロジェクトへの参加も可能
- 調べ学習や探究の支援・オーディオブックを用いた研究なども実施
- 進路：企業、公務員、図書館への就職、大学院進学など



卒業研究で、自分の関心のあるテーマに関連して、特に、原因・影響や効果、
その過程を明らかにしたいと考えている場合には、複数のアプローチを提案することが可能です。

髙良研究室

〇ゼミの概要
　髙良研究室は情報法分野を研究する研究室です。
　情報法領域は、情報通信技術と法に関するICT法の領域、メディアと法に関する領域、情報保護や情報の利活用と法に関する領域です。
情報法に関する領域であれば、幅広く研究可能です。

〇募集人数
　3人（最大5人）

〇ゼミの頻度
　ゼミは原則週1回です（プレゼミ・卒研ゼミ共通）。現在、日時は固定せず、ゼミ生と日程調整を毎回行っています。少人数の場合は柔軟に対応します。

〇これまでの卒論テーマ
　高良研究室は2021年度から始まった研究室です。これまでのゼミ生の研究テーマは、名誉毀損、情報公開法、ヘイトスピーチ、児童ポルノ規制、AIと法などです。参考までに、大学院には法情報学研究を行っている社会人学生が1名います。

〇卒論指導方針
　プレゼミでは法律文献に慣れてもらうために、法律論文の輪読を行います。
　4月からは、各自文献調査を行ってもらい、毎回ゼミで進捗状況の確認と指導を行います。希望に応じて個別指導を行います。

〇指導教員：高良幸哉
　2020年1月から筑波大学勤務
　研究テーマ：刑事法（サイバー犯罪・児童の権利保護など）、情報法（情報通信技術と法、情報保護など）

〇連絡方法
　髙良にアポイントを取る必要がある方は、takara@slis.tsukuba.ac.jp までご連絡ください。

ユニバーサルサービス研究室

Universal service Lab, Takeda Masaki, 7D314, masakita@slis.tsukuba.ac.jp

Information ゼミ概要とおすすめポイント

図書館だけでなく、ユーザビリティ評価や心理,認知科学の数量的分析に興味のある学生を募集します

ゼミは週1 1-2時間位	オンライン 併用型	現地の調査を 大事にする	学会なども 参加できる

本研究室では**ユニバーサルサービス,障害者サービス,高齢者サービス**など、包括的なコミュニティ形成についての研究を行っております。**誰かにとって「やさしい」を考える研究室**です。

Related keywords: Library,Universal service,elderly person, Information Action, Cognitive science, Psychology, Human, Quantitative study, Human studies.

Annual schedule 年間計画

- 1月 基礎学習
- 2-4月 研究計画
- 5-6月 着手発表会
- 7-9月 調査実験
- 10月 中間発表
- 11月 論文執筆
- 12月 最終発表会

Topics これまでの卒業論文のテーマ

「精神・知的障害者への図書館サービスをめぐる先進事例に関する研究」
「図書館におけるピクトグラムの設置状況と有効性に関する研究」
「OPACのインターフェースが検索行動に与える影響について」
「茨城県の中学校・高校における図書室登校の実態」
「公共施設閉鎖における意思決定プロセスの分析」
「日韓の認知症専門図書館における取組み」

＼研究実績はこちら!／

計画書等は必要ないのでお気軽にお問い合わせください!!
面談予約はこちらから→masakita@slis.tsukuba.ac.jp

原 研 究 室

◆研究内容はどんなものですか？

指導教員の原 淳之です。私たちの研究室には、各種メディア（情報資源）の特徴や、それらを社会や図書館で活用するための制度や方法について、日本語・英語で研究する学生が集まっています。例えば、現代小説の海外における翻訳出版を支援する政府の取り組み、欧米で盛んなヘルスリテラシーの観点からみた公共図書館の健康情報サービス、読書バリアフリー推進に向けた公共図書館のコレクション形成、アニメーション療法に用いられる作品の特徴、マンガにおける役割語の分析、映画感想文を活用したリテラシー教育など、多様なテーマに取り組んでいます。なお、現在、日本の政府はゲーム、アニメ、マンガ、音楽、映画を日本の成長戦略における重点分野（コンテンツ産業）として推進し注目されています。ゼミ生は5名です。

◆卒業研究ってどんなふうに進めるのですか？

研究方法は各自のテーマによって、何がふさわしいかを考えながら進めています。質的・量的な調査のどちらも考えられます。文献を読み、テクストの語彙を量的に分析したり、映像を対象とした内容分析や、統計資料を用いた調査をすることもあります。エビデンス（根拠となる事実やデータなど）に基づくことを意識しながら進めます。みなさんはレポートを書くときに、感想のような考察になってしまったことはありませんか。研究ではそうならないようにします。なお、ゼミ生には、高校の文系／理系、総学からの移行学生など、さまざまな学生がいます。

研究指導は教員の研究室での対面やオンラインで、週1回のペースで実施しています。個別指導に加え、ゼミ生みんなで集まることもあります。論文執筆はもちろん各自が主体的に進めますが、みんなでプレゼンの練習をする場合もあります。

あと、指導教員は、ドイツのテュービンゲン大学日本文化研究所やベルリン＝フンボルト大学の図書館で業務に従事したことがあります。ドイツの図書館に興味のある学生がいましたら相談してください。

◆研究室の雰囲気は？

研究室は明るく活気があり、さまざまな《楽しい企画》も行っています。今年は2月に3・4年生の交流会（顔合わせ会）を開催しました。過去には、軽井沢・那須高原・湯西川温泉などへのゼミ旅行や、バーベキュー、花見をした年もあります。また、海外から研究者や学生が来訪する際には、英語でのコミュニケーションにも挑戦してもらっています（特にドイツや韓国との交流があります）。

《進学・就職》は、大学院（博士前期課程・情報学学位プログラム）への進学のほか、就職先・内定先には、国立国会図書館、国立大学法人（事務・図書）、地方公共団体（司書・学校司書、教育委員会を含む）、最大手の電子書籍取次事業者、図書館コンサルティング会社、映像・音楽などを扱うエンタテインメント総合商社、ゲーム制作会社（クリエイター）、出版社（編集者）などがあります。



昨年度の原研究室ゼミ生（3月卒業式の日に撮影）

◆他に学生に伝えたいことは？

研究テーマは最初から整っていなくても、ゼミの過程で洗練させていきます。まずは研究室を訪問して相談してみてください。研究室訪問の希望をメールで送ってもらえれば面談のための時間をお返事します。

◆ゼミ生による研究室紹介

―気兼ねなく発言できる雰囲気―

私たちの研究室は週に1回のゼミがあります。ゼミの後もみんななかなか帰らず、もろもろの雑談をワイワイ楽しくやっています。4年生になると授業がほとんどなく、なかなか学類の友達と会うこともなくなってしまうので、週1でおもいっきりおしゃべりをし、良いストレス発散になっています。私は都内で企業に就職活動をしてきましたが、面接の場で自分の卒業研究のことや最近の出来事を聞かれることが多くありました。卒業研究の説明はゼミ内で随分やってきたおかげでスラスラと話すことができましたし、みんなで話した内容は研究に関わりのないことでも良い話の種になりました。悩んだり挫けそうになった時も、みんなに話を聞いてもらったり、応援してもらったり。就活を無事に切り抜けられたのはこの研究室だったからだと言っても過言ではないです！

また、私たちは《よく遊び！よく学べ！》をモットーに楽しい企画もたくさん立てています。3年生の3月には新潟にスキー旅行に行きました。この旅行は雑談でポロっと出た話が盛り上がって実現したものです。6月には他の研究室の友達も誘ってバーベキューをしましたし、研究室のメンバーの誕生月にはケーキを用意して誕生日パーティーも行っています。何かやりたいことを言うと先生も含めた全員が聞いてくれて、積極的に持ちかければどんどん実現します。このように、研究に関することでも、雑談であっても、自分の意見を気兼ねなく発言できる雰囲気が原研究室の何よりの魅力なのではないかと思います。

（研究室　卒業生　武田未来さん）

アーカイブズ学研究室

指導教員プロフィール

バールィシェフ、エドワルド（Eduard BARYSHEV）
7D415 研究室、内線 1347、baryshev@slis.tsukuba.ac.jp

学生研究室　情報メディアユニオン 407-1 号室（白井先生と共同）

WHAT ARE ARCHIVES?

①永久保存のために選別され、特別な施設で一定の国家機関・社会団体や個人の活動の証言として保存されている記録、②上記の記録が保存されている機関および施設

研究領域

- アーカイブズ学理論全般
- 各国の記録管理と文書館（記憶継承施設）
- 各国のアーカイブズ文化とアーキビスト教育
- 保存記録の管理・利用に関わる諸問題
- 記録媒体と情報処理
- 歴史記録（アーカイブズ）と史料論
- アーカイブズの政治的・社会的な機能性



卒業論文例

- 現代ドイツにおけるアーキビストの養成制度
- 文書館における展示活動に関する研究
- 文書館建築の認識に関する研究―イタリア共和国を事例に―
- カザフスタンの文書館制度
- 震災伝承施設の機能と課題－アーカイブズとの関係を中心に―
- 災害に関する動画資料の収集と利活用

指導方式

- 隔週、ゼミ方式の授業（2 時間程度）を行う他、個別に相談できる時間を設けます。

記録遺産に関心をもち、 過去、現在および未来におけるドキュメントの在り方について学び、 国際色のある独創的な研究に取り組んでいきたい人を、 研究室で待っています。

Dear students, I am waiting for your coming!



保存記録（アーカイブズ）の管理および利用の様子（英国国立公文書館、ロンドン）

Copyright

著作権法の研究室

今では著作権はとても身近なものになりました
私たちの日常にも関わる著作権法について、
興味のある方は一緒に考えてみましょう

まずは関心のあるテーマを考えてみてください

テーマ決めやゼミのことなどについては、
卒業研究指導方針を参照してください
質問などがあれば、
遠慮なくメールで連絡してください

ゼミは、研究生や大学院生がいる場合は合同で行います。著作権法の基礎を確認してから（目安：12 月～ 3 月）、各自のテーマに関連する資料の発表をしてもらったり（目安：春 AB 頃まで）、自分の卒業論文の一部を 発表してもらう（目安：春 C 以降）という形で 進めます。着手・中間・最終発表会の前 には、発表資料の確認や発表練習を行います。9 ～ 10 月頃までに論文の初稿を完成させ ることを目指し、11 月～ 12 月にはその修正や最終発表会の準備を行うイメージで進めます。

専門科目「知的財産権論 A」（秋AB）は、裁判例や文献の調べ方などについて実践的に学ぶため、卒業研究を行ううえでも基礎になります。知的財産法分野に興味のある方は、ぜひ履修してください。

テーマの例：
・図書館と著作権法
・AI と著作権
・著作権法に関する裁判例

指導教員：村井麻衣子

情報資源経営主専攻
村田研究室

指導教員:　村田 光司
教員部屋:　7D404
学生研究室:　7D518
今年度学生数: 4年生4名
E-mail: kmurata@slis.tsukuba.ac.jp

研究キーワード:
アーカイブズ、過去の記憶と情報、歴史学(西洋史)、デジタルアーカイブ、デジタルヒューマニティーズ、文化遺産、古文書・写本、図書館の歴史

受け入れ可能なテーマ(例)

・古い時代の記憶(神話や伝承など)・情報・モノ・アーカイブズ・図書館・写本などの形成・管理・利用(過去・現在・未来)
・過去の文字資料からのデータ抽出・分析など
・有形・無形の文化遺産の資源化(デジタルアーカイブなど)
・海外のアーカイブズ

これまでの卒論のテーマ:
災害伝承碑の活用、まちかど博物館、法帖デジタルアーカイブ、日本刀の逸話、妖精伝承、アーサー王伝説、ローマ皇帝の記憶、筑波大の都市伝説、小宮祭のアーカイブズ、ジャズのアーカイブズ、TRPGアーカイブズ、IIIFなど

ゼミについて

・全体ゼミ月2～3回、個人面談月1＋回
・3年のうちはアーカイブズ、記憶関連の基礎的文献を読みます
・4年生は研究の進捗発表と議論
・希望があれば、たまにどこかに出掛けます
・ゼミ内容やイベントは学生の希望に応じて決まります



▲ギリシャでの調査風景

▼徳川ミュージアム



教員の研究テーマ

・ヨーロッパ古代・中世のアーカイブズ・古文書写本・貨幣など歴史資料研究
・過去の天文記録を用いた地球環境史の研究
・古代・中世のモノ資料(建築物、印章など)の研究資源化(デジタルアーカイブ)
・日本の海外調査記録アーカイブズ
(https://researchmap.jp/kojimurat)

年間スケジュール(仮)

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
	仮配属 文献購読・発表			研究テーマ決定		着手発表		施設体験など		中間発表			卒論発表

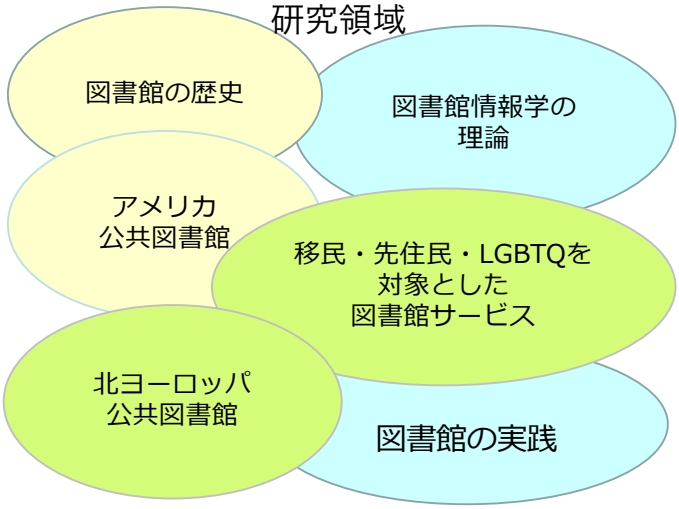
研究室紹介　吉田右子（研究室410）

yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp



BIBLIOTEKET Rentemestervej, København Danmark

研究領域



現在の研究関心

- 社会的に孤立した人びと・不利な立場に置かれた人びと：移民・難民、先住民、LGBTQ、経済的困窮者、非識字者
- 研究方法：資料調査・フィールドワーク
- 研究課題：文化的格差の解消にかかわる公共図書館の可能性



卒業研究の領域と研究方法

（１）生涯学習の空間としての公共図書館の役割に関わる実証的研究

（2）公共図書館の理念および実践にかかわる歴史的研究



Entressen kirjasto, Finland

これまでの卒業研究

詳しくは卒業研究指導方針のリストをどうぞ!

- セクシュアル・マイノリティの子どもを対象としたアメリカの公共図書館サービス
- スウェーデンにおける移民・難民への図書館サービスについて
- オーストラリアにおける先住民族に対する公共図書館サービ
- 東南アジア諸国のコミュニティ学習センターにおける図書館の役割
- 教育格差を背景とした子どもへの学習支援の実態
- アイヌ文化継承活動の現状と課題



OBA IJburg, The Netherlands

研究室配属から卒業論文提出まで

12月	研究方法について学びます
１月	研究テーマについていろいろな角度から検討して研究のフレームを固めていきます
2月	先行研究の調査【ゼミ内発表会】
3月	研究テーマの確定
4月	研究方法と論文構成の検討・予備調査と執筆の開始
5月	予備調査
6月	【着手発表会】研究方法の確定・本調査の計画
7月・8月	本調査
9月	調査の中間まとめ・研究構成の再検討
10月	【中間発表会】追加調査
11月	追加調査の取りまとめ
12・1月	論文の総仕上げ・提出・【最終発表会】

知識情報・図書館学類誌

“知識情報・図書館学類誌MILK”
Web公開中。
バックナンバーも読めます。
https://milk.klis.tsukuba.ac.jp/
ご意見・ご感想お待ちしています！

Credit

知識情報・図書館学類誌MILK研究室紹介号
- 発行者　鈴木佳苗
- 発行日　2026年10月7日
- 編集部　板倉将通　吉岡秀花
- 協力　知識情報・図書館学類　各主専攻担当の先生方

本冊子に掲載されております情報は2026年9月時点の情報です。
学生を募集する研究室すべてについては、学類からの掲示などでご確認ください。